PCカード規格TYPEⅡ準拠

SCSI-2インターフェイスPCカード

PCSC-F

取扱説明書

5378-05

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、株式会社アイ・オー・データ機器サポートセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す場合には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
7) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
8) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
9) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
10) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is only suitable for use in Japan. We shall have no liability for any damages arising from the use or inability to use this product in other countries. We neither provide any technical support and/or after-service for the use of this product abroad.)
11) お客様は、本製品を一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
12) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。
13) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。

■ご挨拶

このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

本書をご覧になるにあたって

● 呼び方

呼び方	意　味
Windows98	Microsoft® Windows®98 Operating System
Windows95	Microsoft® Windows®95 Operating System
Windows98/95	Windows98及びWindows95の総称
Windows3.1	Microsoft® Windows® Operating System Version3.1
Windows	Windows98/95,WindowsNT4.0及びWindows3.1の総称

はじめに

Windows98/95でご使用の場合

Windows98/95を再セットアップする場合

Windows3.1,MS-DOSでご使用の場合

付録

はじめに

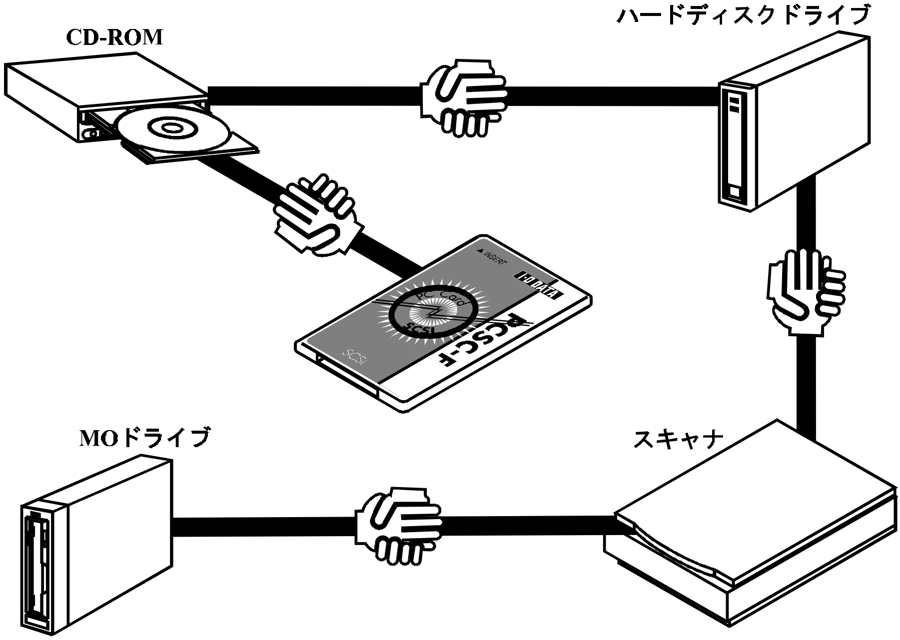
ここではまず箱を開けてから、作業に取り掛かるまでについて説明します。

本製品を使うと

本製品は、以下のようにお使いいただくことができます。

◆ いろいろなSCSI機器を接続できます

ハードディスク、CD-ROMドライブ、スキャナなどいろいろなSCSI機器を接続することが可能です。
最大7台のSCSI機器を接続可能です。

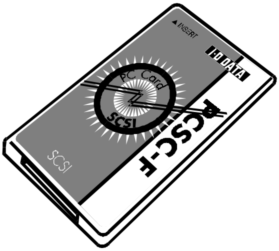


● **接続できるSCSI機器例**

ハードディスク, MOドライブ, CD-ROMドライブ,
CD-Rドライブ, CD-RWドライブ, DVDドライブ,
スキャナなど

箱の中には

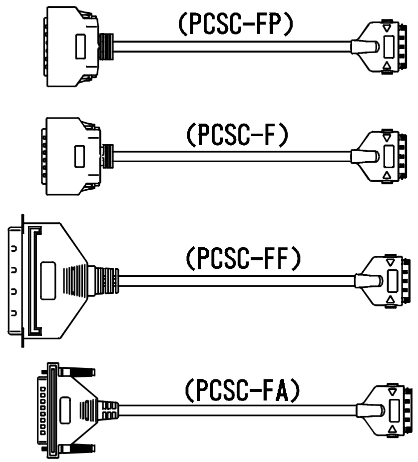
箱の中には以下のものが入っています。
□にチェックをつけながら、ご確認ください。



□ **SCSI-2インターフェイスPCカード**
［PCSC-F］

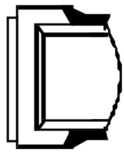


☑ **PCSC-F取扱説明書**
［ユーザー登録カード巻末添付］

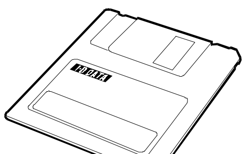


□ **専用SCSIケーブル**
［製品によって上記いずれかのケーブルが一本添付されます。

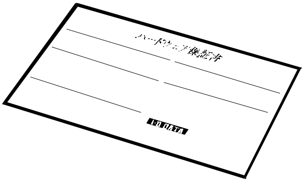
ただし、PCSC-FPBには添付されていません。］



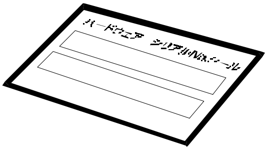
□ **アクティブターミネータ**
［PCSC-FPBには添付されていません］



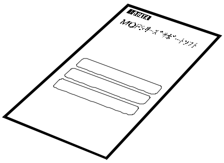
□ **PCSC-Fシリーズサポートソフト**
［3.5インチ2HD（1.44MB）］



□ ハードウェア保証書



□ ハードウェアシリアルNo. シール



□ Verシール

万が一不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

お願い：箱・ 梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

動作環境

●対応機種及び対応OS

対応機種は、下記の条件をすべて満たす以下の機種です。

① CPUにi386SX以上を搭載している。
② PCカード規格 TYPEⅡ（PCMCIA Release2.1(JEIDA Ver4.2)以降）準拠のPCカードスロットを持っている。

NEC PC98-NXシリーズ

対応機種

mobio NXシリーズ（3.5インチFDドライブが必要），
Lavie NXシリーズ,Aile NXシリーズ,VersaPro NXシリーズ

対応OS

日本語Windows98/95

DOS/Vマシン

対応機種

各種DOS/Vマシン

その他（次のPCカードアダプタを搭載したデスクトップパソコン）
弊社製　CardDock/DV,CardDock2-EX/DV

対応OS

日本語Windows98/95,
日本語Windows3.1(MS-DOS(PC DOS) Ver5.0/V以上),
MS-DOS(PC DOS) Ver5.0/V以上

Windows3.1,MS-DOS(PC DOS)環境では、PCカードドライバ(ソケットサービス／カードサービス[リリース2.0以上])が必要です。
例）IBM Play At Will 2.0、SystemSoft CardSoft 3.1
Phoenix PCM puls 3.0
標準でPCカードドライバが添付されてない場合がありますのでご確認ください。PCカードドライバに関しては、各パソコンメーカーにお問い合わせください。

NEC PC-9800シリーズ

対応機種

NEC　　PC-9801NX/C※, NL/R※, NS/A※, NL/A
PC-9821Es, Ne※, Ne2, Ne3, Np, Ns, Nd, Nd2, Nm, Nf, Nx,
Nb7, Nb10, Na7, Na9, Na12, Na13, Na15,
Nr12, Nr13, Nr15, Nr150, Nr166, Nr233, Nr233, Nr266,
Nw150, Ld, Lt, Lt2, La7, La10, La13, Ls12, Ls13, Ls150

EPSON　　PC-486Portable・PC-486NOTE AU, AV, AT・PC-586NOTE AT

その他（次のPCカードアダプタを搭載したデスクトップパソコン）
NEC製　PC-9801-102
弊社製　CardDock/98, CardDock2-EX/98

※ Windows3.1, MS-DOS上で使用する場合、別売のPCカードサポートソフトが必要となります。（詳細は、NECにお問い合わせください。）

対応OS

NEC　　日本語Windows98/95,
日本語Windows3.1(MS-DOS Ver5.0A-H以上),
MS-DOS Ver5.0A-H以上

EPSON　　日本語Windows95,
日本語Windows3.1(MS-DOS Ver5.0以上),
MS-DOS Ver5.0以上

NEC PC-9821シリーズのWindows98/95環境でPCSC-Fを使用する場合
→
「98NOTEメニュー」で『16Mバイトシステム空間』の設定を「使用する」にしてください。
なっていないとPCSC-Fの性能はフルに発揮できません。

ユーザー登録しよう

ユーザー登録にはオンラインによる登録と、ハガキによる登録の2通りがあります。
いずれかの方法で登録を行ってください。

《オンラインによる登録》（ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ http://www.iodata.co.jp/）

I-O DATA ホームページに「オンライン・ユーザー登録」ボタンが用意されています。このボタンをクリックするとオンライン登録の案内が表示されますので、画面の表示にしたがって必要事項を記入することにより、即座にユーザー登録が行えます。

オンライン・ユーザー登録を行えば、抽選で賞品の当たる等のお楽しみ企画をご用意しております。
オンライン・ユーザー登録後、お手元のユーザー登録カードには、ユーザー登録番号を記入して大切に保管してください。

《ハガキによる登録》

1) 添付のVerシールを、ユーザー登録カード、サポートソフトウェアディスクの「Verシール」と書かれている欄、本書の巻末に貼ってください。
2) 添付のハードウェアシリアルNo.シールを、ユーザー登録カード、ハードウェア保証書に貼ってください。
3) ユーザー登録カードに、必要な事項をご記入のうえ、弊社まで必ずご返送ください。

> 1) 弊社では、サポートセンターでソフトウェアのバージョンアップサービスなどを行っていますが、これらのサービスはユーザー登録を行った方のみが対象となります。お買い上げいただいた製品ごとに必ず登録を行ってください。
> 2) ユーザー登録カードによる登録の場合、必要事項のご記入もれや必要なシールの貼り忘れがあった場合は、ユーザー登録できませんので、必ずご確認ください。

取り扱い上の注意

・取り扱い上の注意

- コネクタ部分に金属を差し込まないでください。
- 濡らさないでください。
- PCSC-Fを使用する場合には、必ず周辺機器を接続し、周辺機器の電源を先に入れてからパソコンを起動してください。
- パソコン本体にカードを装着して移動する場合、添付のケーブルは必ずカードから取り外してください。
- ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。
- モータなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してご利用ください。

・本製品の内部の点検・調整・修理は弊社サポートセンターにご依頼ください。

・保証について

◎保証期間

・保証期間は、お買い上げの日より１年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。

・弊社が販売中止を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

◎保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

・本製品の使用によって生じた、データの消失および破損。

・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。

・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

使用上の制限と注意

- PCSC-Fに接続された機器からの**システムの起動（ブート）はできません。**
- **PCSC-Fに接続されたドライブへ**OSをインストールすることはできません。
- PCSC-F及び添付ドライバは、HOT PLUG(活線挿抜）※に対応していますが、**SCSI機器にアクセス中の場合はカードを抜かないでください。**
  ※「HOT PLUG(活線挿抜)」とは、OSの起動中にSCSI PCカードを抜いても、再挿入すると再び使用可能な状態になる機能のことです。
- PCSC-Fに接続されたハードディスクやMOに対して**FDISKコマンドによるフォーマットはできません。**また、DISK-BIOS（INT 13hなど）を直接呼び出して動作するソフトによる操作もできません。添付ソフトウェアのフォーマッタをご使用ください。
  （NEC PC-9821シリーズでは、MS-DOS上で98BIOS互換ドライバを使用することにより、DISK-BIOSを呼び出すソフトが動作可能です。）
- **PCSC-Fに接続されたCD-ROMドライブで音楽CDを再生する場合**、その音声はパソコン本体の内蔵スピーカからは出力されません。**CD-ROMドライブのライン出力またはヘッドフォン端子から出力**されます。
- PCSC-Fに接続されたハードディスクやMOに対して**Windowsのスワップファイルを設定しない**でください。
- PCSC-Fに複数のSCSI機器を接続する場合は、**ケーブルの総延長が1.5mを越えないように**してください。また、接続する機器にもよりますが**接続台数はできるだけ2台を越えないように**してください。
- PCSC-Fに接続したSCSI機器にアクセスしている時には、PCカードの挿入や抜き取りを行わないでください。
- Windows3.1,MS-DOS(PC DOS)では、パソコン起動前にSCSI機器の電源を入れないとSCSI機器が認識されません。必ず接続したSCSI機器の電源を入れ，PCSC-Fを挿入してからパソコンを起動してください。また、SCSI機器の電源を切る場合は、PCSC-FをPCカードスロットから取り出した後か、パソコン本体の電源を切った後で行ってください。

- パソコンにPCSC-Fが挿入されたままの状態でのケーブルの取り付け・取り外しは行わないでください。

- CardBus PCカードと16bit PCカードを同時にご使用になる場合、PCカードスロットにCardBus PCカードと16bit PCカードを同時に挿入したまま、Windows 98/95を起動すると、Windows98/95が起動中に止まってしまう場合があります。その場合、CardBus PCカード１枚のみをPCカードスロットに挿入した状態でWindows98/95を起動し,Windows98/95の起動完了後に16bit PCカードをPCカードスロットに挿入するようにしてください。

  （例:PCSC-FとCardBus PCカードの場合）

  CardBus PCカードをPCカードスロットに挿入して、Windows98/95を起動します。

  そして、Windows98/95が起動完了した後にPCSC-FをPCカードスロットに挿入してお使いください。

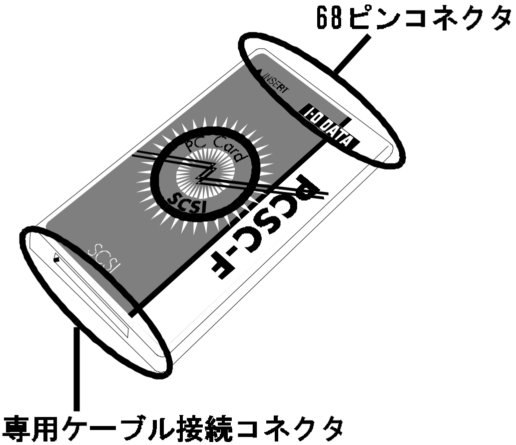
- **内蔵ハードディスクのセクタサイズによる制限**
  （PC-9800シリーズのWindows3.1（MS-DOS）上で98BIOS互換ドライバ
  ［SCF_BIOS.SYS］］(P97)使用時のみ）

  内蔵ハードディスクに容量65～128Mバイトのドライブが割り当てられていない場合、外付けのハードディスクや5インチMOディスクに容量65～128Mバイトのドライブを割り当てることはできません。これは外付けSCSI機器のセクタサイズ(MS-DOSが管理する論理セクタサイズ)が内蔵ハードディスクのセクタサイズよりも大きくならないようにするためです。例えば、内蔵ハードディスクに2,048バイトのセクタサイズを持つドライブがない場合、外付けにも2,048バイトのセクタサイズを持つドライブは割り当てられないということです。

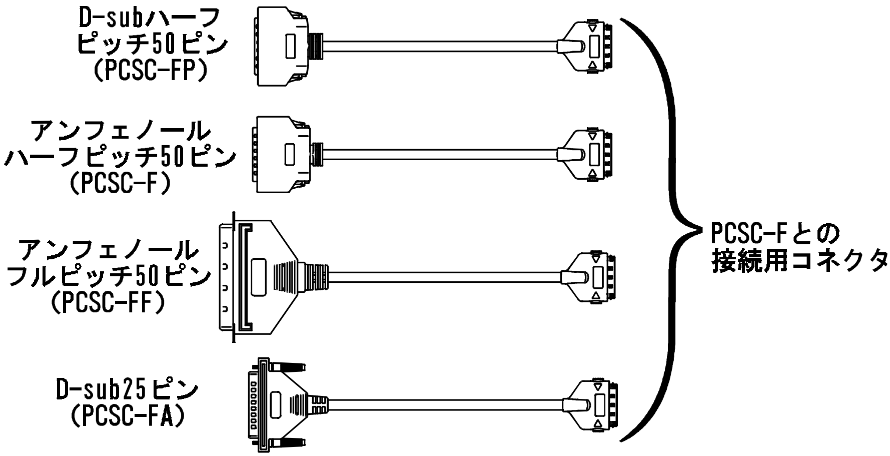
外付けドライブの容量	セクタサイズ
ハードディスク1～64Mバイト	1,024バイト
ハードディスク65～128Mバイト	2,048バイト
ハードディスク129Mバイト以上	256バイト、または512バイト
5インチMOディスク	1,024バイト

各部の名称と機能について

● PCSC-F



● 専用ケーブル



［製品によって上記いずれかのケーブルが一本添付されます。
ただし、PCSC-FPBにはケーブルは添付されておりません。］

●オプション品

名前	長さ	タイプ
CBSCⅡ-H50※1	50cm	専用25ピン⇔アンフェノールハーフピッチ50ピン
CBSCⅡ-A50-L※1,2	75cm	専用25ピン⇔D-subハーフピッチ50ピン
CBSCⅡ-F50-L※1,2	75cm	専用25ピン⇔アンフェノールフルピッチ50ピン
CBSCⅡ-A25-L※1,2	75cm	専用25ピン⇔D-sub25ピン
A50-A50-S	30cm	D-subハーフピッチ50ピン⇔D-subハーフピッチ50ピン
A50-A50-SS	10cm	D-subハーフピッチ50ピン⇔D-subハーフピッチ50ピン
H50-H50-S	30cm	アンフェノールハーフピッチ50ピン⇔アンフェノールハーフピッチ50ピン
A50-H50-S	30cm	D-subハーフピッチ50ピン⇔アンフェノールハーフピッチ50ピン

※1 CBSCⅡシリーズ、PCSC-Fシリーズ共通オプション品です。

※2 このケーブルをご使用の環境では、SCSI機器を複数台接続してご使用いただけません。

実行用ディスクを作ろう

本製品に添付されているサポートソフトは、必ず以下の方法でバックアップを取り、バックアップディスクの方を実行用ディスクとしてご使用ください。
（以下の例は、フロッピーディスクドライブがAドライブの場合です。）

1 フォーマット済みの空きフロッピーディスクを用意します。

空きフロッピーディスクは「3.5インチ2HD：1.44MB」を用意します。

2 サポートソフトを書き込み禁止にします。

3 ディスクのコピーを行います。

Windows98/95の場合は、「ﾏｲ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」の「3.5ｲﾝﾁ FD」を右クリックし「ﾃﾞｨｽｸのｺﾋﾟｰ」を選択します。



MS-DOS（PC DOS, Windows3.1）の場合は、MS-DOSのコマンド入力状態で以下のように打ち込んで、・キーを押します。

```
C:¥>diskcopy a: a:_
```

4 メッセージにしたがって、バックアップを取ります。

サポートソフトと空きフロッピーディスクをメッセージにしたがって入れ替えながら、バックアップを取ります。

サポートソフトを破損した場合の修理は有償です。
必ず本手順を行い、サポートソフトは大切に保管しましょう。

これから何を？

ここからは行いたい作業により、お読みいただく箇所が異なります。
希望作業ごとに必要な箇所をお読みください。

MEMO

Windows98/95でご使用の場合

ここではWindows98/95で使用する際の設定について説明します。
PCSC-Fに接続したCD-ROMドライブからWindows98/95をインストールする場合は、【Windows98/95を再セットアップする場合】(P47)を参照してください。

インストールしよう(P18)

インストール手順について説明します。

↓

接続しよう(P21)

PCSC-FをSCSI機器及びパソコンに接続します。

↓

確認しよう(P24)

インストール及び接続が正常かどうか確認します。

↓

フォーマットしよう(P29)

SCSI機器のフォーマットの方法について説明します。
（必要に応じてお読みください）

↓

PCSC-Fを抜き挿ししてみよう(P39)

本製品を接続したり、取り外す際の手順について説明します。

インストールした情報を削除するには(P44)

アンインストールの手順を説明します。
（必要に応じてお読みください）

インストールしよう

ここではWindows98/95上で、PCSC-Fを使用するための手順を説明します。

PCSC-Fは、ここではまだ挿入しないでください。

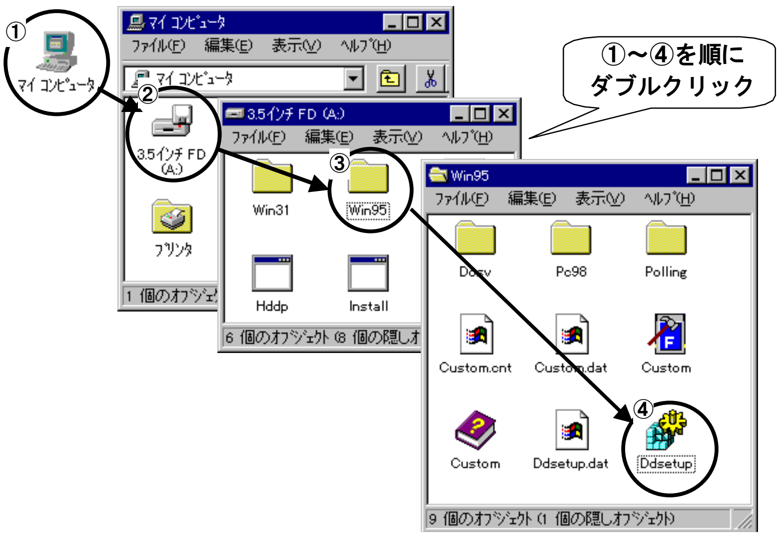
《インストール前にPCSC-Fを挿入してしまったときは》

PCSC-Fを挿入し、『新しいハードウェア』ウィンドウが表示された場合	［キャンセル］ボタンをクリックし、PCSC-FをPCカードスロットから取り外してください。
『新しいハードウェア』ウィンドウで何らかの操作を行ってしまった場合	PCSC-Fを取り外した状態で【インストールした情報を削除するには】（P44）の手順で一旦アンインストールを行ってください。その後、以下の手順でインストールを行ってください。

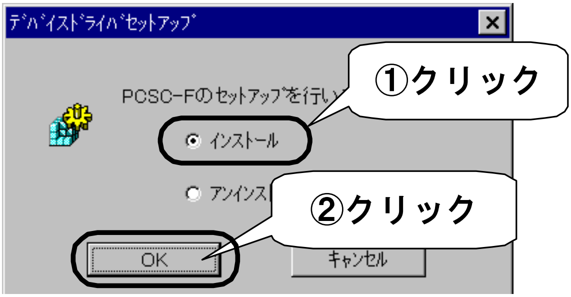
1 「PCSC-Fシリーズサポートソフト」を挿入します。

2 「DDSETUP」を起動します。

［マイコンピュータ］→［3.5インチFD］→［Win95］→［Ddsetup］の順にアイコンをダブルクリックします。



3 「インストール」を選択し、［OK］ボタンをクリックします。



4 インストールするデバイスを選択します。

使用しているパソコンにより、選択するデバイスが異なります。

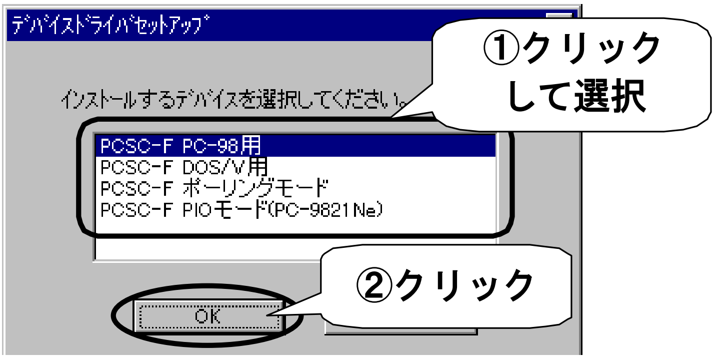
PC-9821Ne以外のPC-9800シリーズの場合…………… ［PCSC-F PC-98用］

PC98-NXシリーズ及びDOS/Vマシンの場合…………… ［PCSC-F DOS/V用］

PC-9821Neの場合………………………… ［PCSC-F PIOモード(PC-9821Ne)］

選択後、［OK］ボタンをクリックします。

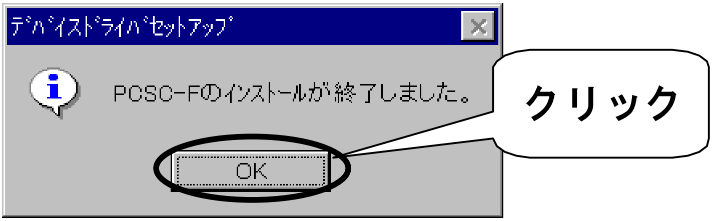
⇒インストールを開始します。



［PCSC-F ポーリングモード］は、通常は使用しません。
上記のデバイスで正常に動作しない場合に選択します。

続く

5 [OK] ボタンをクリックします。



6 「PCSC-Fシリーズサポートソフト」を抜きます。

7 Windows98/95を再起動します。

以上でインストールは終了です。
次ページの【接続しよう】にお進みください。

接続しよう

PCSC-Fを各SCSI機器およびパソコンに接続する方法について説明します。

1 SCSI機器の電源をすべてOFFにします。

2 各SCSI機器のSCSI-IDの設定を行います。

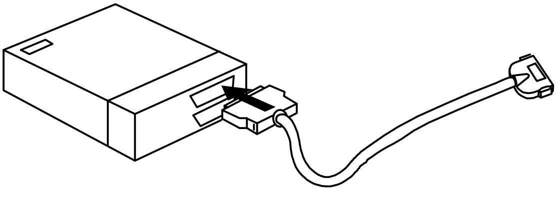
それぞれのSCSI機器は「0～6」内で重ならないように設定します。
設定の詳細は、各SCSI機器の取扱説明書をご覧ください。

3 PCSC-FにSCSI機器を複数接続する場合は以下にご注意ください。

① SCSIケーブルは、長さ30cm以下のケーブル（弊社製別売オプション A50-A50-S,H50-H50-SまたはA50-H50-S等）を使用してください。
② Ultra SCSI対応ハードディスク（弊社製HDVS-Uシリーズなど）をご使用の際は2台目以降に接続してください。

4 SCSI機器の先端に本製品添付の専用SCSIケーブルを接続します。

ケーブルの向きを充分確認し、「カチッ」と音がするまで押し込んで接続します。

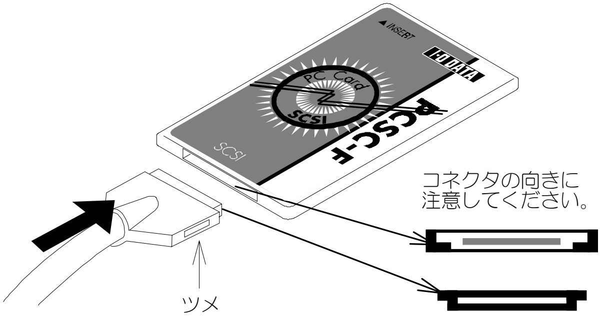


1）**他社製のSCSIケーブルは、絶対に使用しないでください。**
PCSC-Fが破壊される恐れがあります。
2）**SCSI機器と専用SCSIケーブルが接続できない場合**
別売オプションの専用SCSIケーブル(P13)を用意してください。
変換コネクタは使用しないでください。

続く

5 PCSC-Fに付属の専用SCSIケーブルを接続します。

コネクタの向きを充分確認し、「カチッ」と音がするまで押し込んで接続します。



PCSC-Fから専用SCSIケーブルを外す際は、ケーブルの両側のツメを押しながら水平にカードから抜いてください。

6 SCSI機器の終端に付属のターミネータを取り付けます。

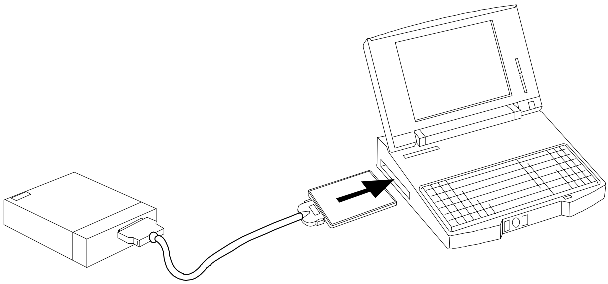
7 PCSC-Fに接続した各SCSI機器の電源をONにします。

SCSI機器の電源を入れてからPCSC-FをPCカードスロットに挿入してください。
PCSC-FをPCカードスロットに挿入後、SCSI機器の電源を入れてもSCSI機器が認識されません。

8 パソコンの電源をONにし、Windows98/95を起動します。

9 PCSC-FをパソコンのPCカードスロットへ挿入します。

PCSC-Fをラベルが貼ってある面を上にしてパソコンのPCカードスロットへまっすぐに差し込みます。確実に差し込み、軽く引いても抜けないことを確認してください。



Windows98/95が起動している状態で、PCカードスロットにPCSC-Fを挿入しても特に問題はございません。

ドライバが正常にインストールされていれば、PCSC-Fをパソコンに接続した時点で、PCSC-Fは正しく認識され、PCSC-Fが使用できるようになります。

接続は終了です。
次ページの【確認しよう】にお進みください。

確認しよう

ここではPCSC-FがWindows98/95で正常に認識されているかどうかの確認とPCSC-Fに接続しているSCSI機器の確認方法について説明します。
ここでの確認が正常であれば、PCSC-Fが使用できます。

以下の確認はSCSI機器を接続したPCSC-Fをパソコンに挿入した状態で行ってください。

PCSC-Fの正常認識確認１

1 ［コントロールパネル］を開きます。

［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］の順にクリックします。

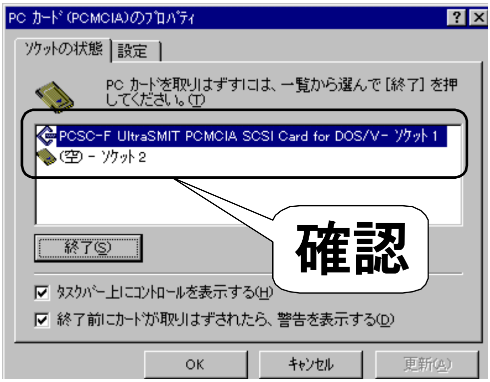
2 ［PCカード(PCMCIA)］アイコンを起動します。



3 PCSC-Fが正常に認識されているかを確認します。

「PCSC-F UltraSMIT PCMCIA SCSI Card XXXX」と表示されている場合は、正しく認識されています。

※ XXXXの内容は使用しているモードによって異なります。



「(空)-ソケット1（または2）」と表示されている場合

→ カードが認識されていません。もう一度、抜き差ししてしっかりと挿入してください。

→ ご使用のパソコンがIBM製ThinkPadシリーズの場合は、【(空)-ソケット1（または2）となる】(P113)を参照してください。

それ以外の表示（「?WBT NINJA SCSI-3」など）の場合

→ 【PCカードのプロパティで他のドライバが表示される（「?WBT NINJA SCSI-3」など）】(P116)を参照してください。

正しく表示されていれば正常です。
次ページの【PCSC-Fの正常認識確認２】にお進みください。

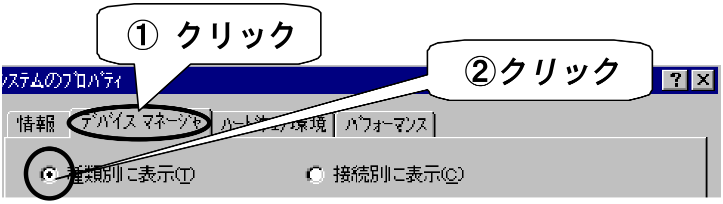
PCSC-Fの正常認識確認２

1 ［システムのプロパティ］を開きます

［マイコンピュータ］を右クリックし、表示された「プロパティ」をクリックします。

2 ［種類別に表示］を選択します。

［デバイスマネージャ］タブをクリックします。
その後、［種類別に表示］をクリックしします。



PC98-NXシリーズをお使いで「デバイスマネージャ」タブが表示されない場合 →	1. ［スタート］→［プログラム］→［Cyber Trio-NX］（［NXユーティリティ］または［NXの設定］）→［Cyber Trio-NXｾｯﾄｱｯﾌﾟ］を選択します。 2. ［アドバンスモード］にチェックし、Windowsを再起動します。 3. 再度手順の *1* から行います。

3 ［SCSIコントローラ］をダブルクリックします。

4 PCSC-Fが正常に認識されているかを確認します。

「PCSC-F UltraSMIT PCMCIA SCSI Card XXXX」と表示されている場合は、正しく認識されています。

※ XXXXの内容は使用しているモードによって異なります。



“！”マークがついている → 「PCSC-Fのドライバに“！”マークがついている」(P104)を参照してください。

正しく表示されていれば正常です。

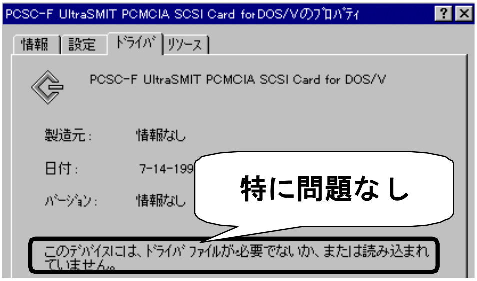
接続したSCSI機器にフォーマットが必要な場合は、【フォーマットしよう】(P29)を参照してください。また、PCSC-Fの抜き差しについては、注意が必要です。【PCSC-Fを抜き挿ししてみよう】(P39)を必ず参照してください。

[参考]

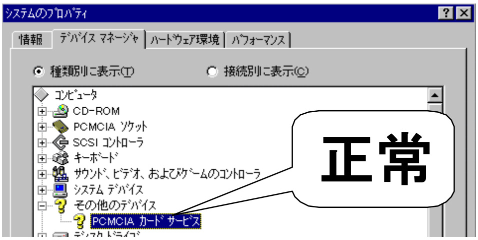
Windows95 バージョン4.00.950 B/4.00.950 Cをお使いの場合

(バージョンの確認は、下の【Windows95のバージョンの確認】参照)

1) PCSC-Fが正常に動作していても［デバイスマネージャ］で以下の画面表示となりますが、特に問題ありません。



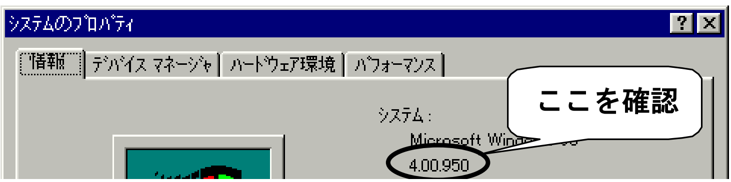
2) PCSC-Fが正常に認識されると［デバイスマネージャ］の［その他のデバイス］に「PCMCIA ｶｰﾄﾞ ｻｰﾋﾞｽ」が追加されます。これは正常動作している状態ですので、削除しないでください。



《Windows95のバージョンの確認》

① ［マイコンピュータ］を右クリックし、表示された「プロパティ」をクリックします。

② 『ｼｽﾃﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』に表示される番号がWindows95のバージョンです。



フォーマットしよう

PCSC-Fに接続したSCSI機器をフォーマットする方法を説明します。

未フォーマットのハードディスク

「PCSC-Fシリーズサポートソフト」内の『ASPIFORM.EXE』でフォーマットしてください。
次ページの【ASPIFORMでフォーマット】を参照してください。
フォーマット後に、［マイコンピュータ］にアイコンが表示されます。

PCSC-Fに接続したSCSI機器には『FDISK』は使用しないでください。

フォーマットされたハードディスク

フォーマットされたハードディスクをフォーマットする場合は、［マイコンピュータ］内のハードディスクのアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］をクリックします。

1) **ASPIFORMでフォーマットしていた場合**は、再フォーマットの際もASPIFORMを使ってフォーマットしてください。
2) **以下の場合はフォーマット済みでも再フォーマットができません。**
（『ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』に表示されません。）
次ページの【ASPIFORMでフォーマット】を参照してください。
   1. WindowsNTでNTFSフォーマットにされたSCSI機器の場合。
   2. PC-9821シリーズ用MS-DOSのFORMAT.EXEでフォーマットしたSCSI機器をDOS/Vマシンや、PC98-NXシリーズで使用する場合。
   3. FAT32フォーマットされたSCSI機器をWindows95 4.00.950/4.00.950aで使用する場合。
   4. Windows、MS-DOS(PC DOS)以外のOSでフォーマットされたSCSI機器の場合。(FATフォーマットされていない場合。)

ハードディスク以外のSCSI機器 (MOドライブなど)

各SCSI機器の取扱説明書を参照して、フォーマットを行ってください。

ASPIFORMでフォーマット

ASPIFORM.EXEは、各ディスクのフォーマット形式の確認やハードディスク等のフォーマット等を行うためのソフトウェアです。

1. ASPIFORM.EXEでは、作成可能な領域数（区画数）は最大５です。
2. HDD（ﾘﾑｰﾊﾞﾌﾞﾙを除く）の場合、必ずパーティションを1つ以上作成してください。
   作成しないと［マイコンピュータ］内にドライブアイコンが表示されません。（作成方法：「パーティションの作成」(P37)）
3. 640Mバイト,1.3Gバイトなどの大容量MOディスクのフォーマットは、MOドライブ添付の取扱説明書にしたがってください。
4. ASPIFORM.EXEでフォーマットしたドライブまたはディスクからは、ブートすることができません。
5. ハードディスクをPC-9821シリーズのWindowsNT4.0でも使用する場合、複数パーティションを作成しないでください。
   複数パーティションを作成したい場合は、以下の方法があります。
   - ASPIFORMで「ディスクの初期化」を行い、未フォーマット状態にして、ディスクアドミニストレータでフォーマットする。
6. ASPIFORM.EXEでフォーマットしたハードディスクは、PC-9821シリーズのデスクトップに接続した場合、MS-DOSでは使用できません。
7. ASPIFORM.EXEでの1パーティションの最小容量は、ハードディスクの全容量が1024Mバイト未満の場合は「33Mバイト」、1024Mバイト以上の場合は「39Mバイト」です。

パーティションについて

通常1台のハードディスクはいくつかのパーティション（区画領域）に分割して使用できます。
分割したパーティション単位にドライブが割り当てられるため、1台のハードディスクを複数台のドライブがあるかのように利用できます。

例１）ハードディスクの全容量を１つのパーティションで使用する場合

ハードディスクのドライブ数（ドライブ名）は1つ割り当てられます。

例２）ハードディスクを3つのパーティションで使用する場合

ハードディスクのドライブ数は3つ割り当てられます。

4.1Gバイトのハードディスクのパーティション分割例

パターン１（３つに分ける）		パターン２（４つに分ける）
2G	１つめのパーティション	1G
1G	２つめのパーティション	1G
1.1G	３つめのパーティション	1G
	４つめのパーティション	1.1G

上記の容量は理論値です。実際の値とは異なる場合があります。

OSによる使用制限

ASPIFORM.EXEは、使用しているOSによって作成できるパーティションの最大容量とファイルシステムが異なります。

FAT32　・パーティションサイズの制限は、事実上ありません。
・MS-DOSなどのFAT32非対応のOSではアクセスできません。

FAT16　・Windows98/95,WindowsNT,Windows3.1,MS-DOSなどで使用できます。
・パーティションサイズは最大2047Mバイトまでです。

使用OS	ファイルシステム	
	FAT32	FAT16
NEC製 MS-DOS Ver6.2	×	○(2047Mバイトまで)※1
DOS/V製 MS-DOS(PC DOS)Ver5.0/V以降	×	○(2047Mバイトまで)※1
Windows95 4.00.950/4.00.950a	×	○(2047Mバイトまで)
Windows95 4.00.950 B/4.00.950 C	○※2	○(2047Mバイトまで)
Windows98	○※2	○(2047Mバイトまで)

※1：OSの制限により、パーティション容量が合計で約8033Mバイトまでのハードディスクしか認識できません。ASPIFORMで合計約8033Mバイトを超える容量を設定しないでください。
※2：512Mバイト以上の空き容量がある場合のみ作成可能です。

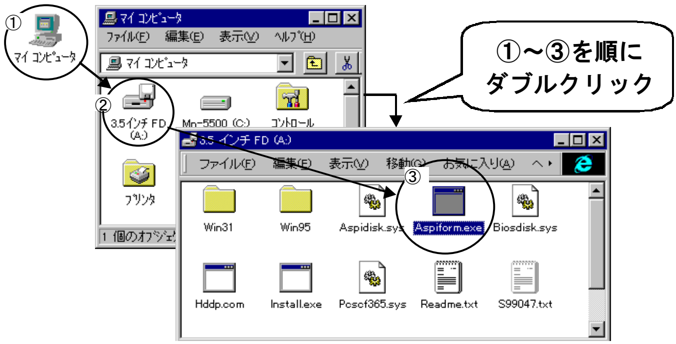
1)ASPIFORM.EXEで作成したFAT16のパーティションをFAT16→FAT32コンバートツール（Windows98のFAT32コンバータなど）を使用してFAT32に変更しないでください。
FAT16で作成したパーティションをFAT32に変更してご使用になりたい場合は、ASPIFORMを使用してパーティションを削除し、FAT32パーティションを作成しなおしてください。
（削除したパーティションのデータはすべて失われます。）
2)FAT32ファイルシステムに対応していないディスクユーティリティを、FAT32で作成したパーティションに対して使用しないでください。
3)FAT32に対応していないOSと併用する場合は、FAT16でパーティションを作成してください。

ASPIFORMでフォーマットをおこなう

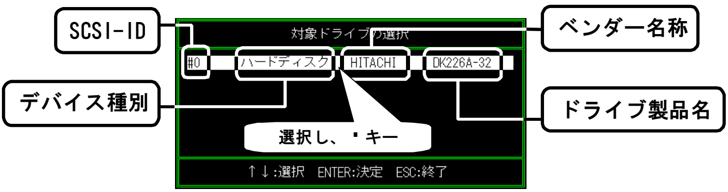
1 「PCSC-Fシリーズサポートソフト」を挿入します。

2 『Aspiform.exe』を起動します。

［マイコンピュータ］→［3.5インチFD］→［ASPIFORM.EXE］をの順にダブルクリックします。



3 対象とするドライブを選択し、・キーを押します。

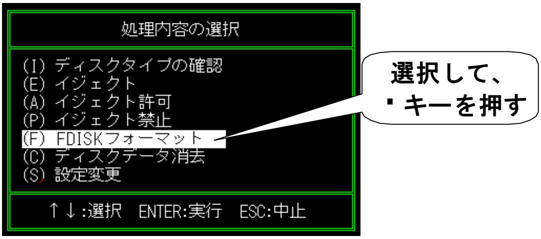


「対象となるドライブが見つかりません」と表示される	【ASPIFORMを実行しても、PCSC-Fに接続したハードディスクがフォーマットの対象として表示されない】(P118)を参照してください。

続く

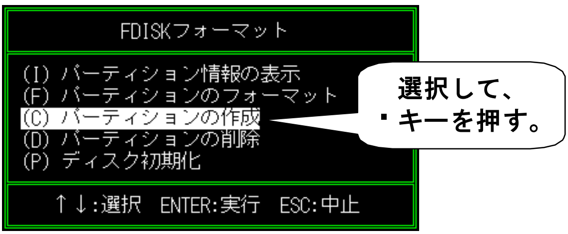
1) 内蔵ハードディスクは表示されませんので、間違って内蔵ハードディスクの内容を消すことはありません。
2) 内蔵CD-ROMドライブなどが表示される場合がありますが、問題ありません。また、それを選択することもできません。

4 「(F)FDISKフォーマット」を選択し、・キーを押します。



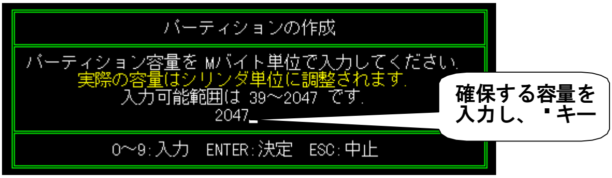
各項目の詳細については、【● ASPIFORM.EXEの処理内容】(P37)を参照してください。

5 「パーティションの作成」を選択し、・キーを押します。



6 確保する領域の容量を入力して、・キーを押します。

最大容量を確保する場合は、そのまま・キーを押します。



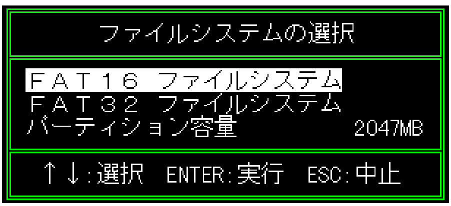
OSによって、作成できるパーティションの最大容量と、ファイルシステムは異なります。《OSによる使用制限》(P32)を参照してください。

7 容量を確認し、「実行」を選択して、・キーを押します。



8 ファイルシステムを選択します。

⇒フォーマットが開始されます。

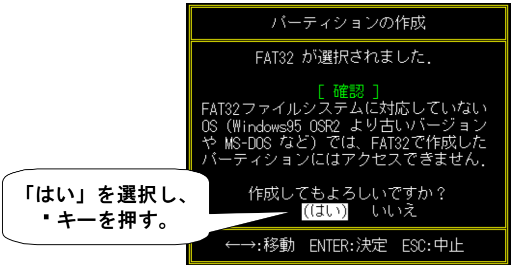


続く

> 通常は片方のみ選択可能ですが、手順*6* で指定した容量によっては両方選択可能になる場合があります。
> FAT32ではMS-DOSなどで認識ができないことにご注意ください。
> 詳しくは《OSによる使用制限》(P32)を参照してください。

9 「FAT32 ファイルシステム」の場合、以下が表示されます。

画面上のメッセージを確認し、作成しても良いなら「はい」を選択し、・キーを押します。



10 フォーマットが終わりましたら、・キーを押します。

11 複数のパーティションを作成する場合

複数のパーティションを作成する場合は、手順*5* からの作業を繰り返し行い、残りの容量を確保してください。

12 [ESC] キーを3回押し、ASPIFORM.EXEを終了します。

<u>終了後、ASPIFORMのウィンドウの［×］ボタンをクリックして閉じます。</u>
<u>「PCSC-Fシリーズサポートソフト」を抜き、パソコンを再起動してください。</u>

以上でフォーマットは終了です。
再起動後に『マイコンピュータ』にアイコンが追加され、SCSI機器が使用できるようになります。

● ASPIFORM.EXEの処理内容

ｷｰ	処理項目	対象ドライブ、ディスク	処理内容
I	ディスクタイプの確認	全ドライブ、ディスク	ドライブ内のディスクが、どのフォーマット形式に従ってフォーマットされているかを判別します。
E	イジェクト	リムーバブルディスク、MOのみ	ドライブ内のディスクをイジェクトします。
A	イジェクト許可	リムーバブルディスク、MOのみ	無効化されたイジェクトボタンを有効にします。イジェクトボタンによるイジェクトが可能になります。
P	イジェクト禁止	リムーバブルディスク、MOのみ	イジェクトボタンを無効化します。 イジェクトが許可されるまで、イジェクトボタンは効かなくなります。
F	FDISK フォーマット （ドライブ内をフォーマットします。ドライブ上のデータはすべて消去されます）	HDD（リムーバブルを除く）	・パーティション状態の表示 　パーティションの状態を表示 ・パーティションのフォーマット 　パーティションを選択後、論理フォーマットを行う 　「パーティションの作成」後にこの作業は必要ありません **・<u>パーティションの作成</u>** 　新規パーティションを作成し、論理フォーマットを行う 　（この作業は必ず行ってください） ・パーティションの削除 　末尾のパーティションを削除 ・ディスク初期化 　物理フォーマットを行う
	フォーマット	リムーバブルHDD/MO	・物理フォーマット 　通常は必要ありません。 ・論理フォーマット 　MO,PDの場合はスーパーフロッピーフォーマットでフォーマット ・システム転送 　PC-9821ｼﾘｰｽﾞでMOﾃﾞｨｽｸを使用時のみ ・ボリュームラベル 　ボリュームラベルの設定

C	ディスクデータ 消去	全ドライブ、 ディスク	ディスクのデータを消去します。 ・簡易データ消去 　　データ管理情報部分のみを消去 ・完全データ消去 　　ディスク上のすべての情報を消去
S	設定変更	弊社製RM-MOシリーズ、MOFシリーズのみ	ライトキャッシュの設定を行います。 初期設定はOFFです。

PCSC-Fを抜き挿ししてみよう

ここでは、PCSC-Fを実際に使用する際の、電源をON/OFFする順番や注意事項について説明します。

PCSC-Fをパソコンに取り付ける

1 **PCSC-Fに接続した全てのSCSI機器の電源を入れます。**

2 **PCSC-FをパソコンのPCカードスロットに差し込みます。**

PCSC-Fは、いつ挿入しても大丈夫です。
挿入するタイミング例）
・パソコンの電源を入れる前（挿入後に電源を入れる）
・Windows98/95が起動した後（自動で認識されます）

パソコンの電源を切ってから取り外す

1 **Windows98/95を終了し、パソコンの電源を切ります。**

2 **PCSC-FをパソコンのPCカードスロットから抜きます。**

3 **PCSC-Fに接続した全てのSCSI機器の電源を切ります。**

Windows98/95を使用中に取り外す

Windows98/95を使用中でもPCSC-Fを取り外すことができます。
ただし、次ページ以降の終了手順を行わずにPCSC-FをPCカードスロットから取り外すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

続く

PCSC-FをPCカードスロットから取り外す際には、次ページの【終了手順ーその１】または【終了手順ーその２】(P42)に従って行ってください。

「終了手順 － その２」を参照



「終了手順 － その１」を参照

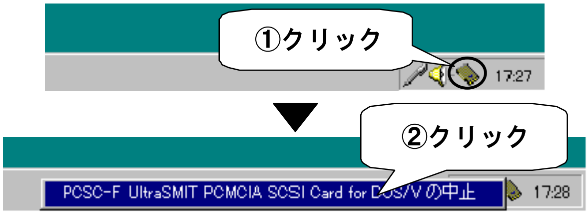
1) SCSI機器へアクセス中に、絶対にPCSC-Fを抜かないでください。
ディスクの内容が破壊される恐れがあります。
2) パソコンにPCSC-Fが挿入されたままの状態でのケーブルの取り付け及び取り外しは行わないでください。

終了手順ーその１

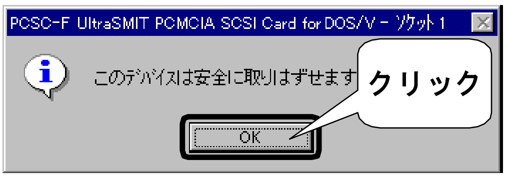
1 接続したSCSI機器にアクセスがないことを確認します。

2 「PCSC-F UltraSMIT PCMCIA …の中止」をクリックします。

タスクバーのPCカードアイコンをクリックします。表示された
［PCSC-F UltraSMIT PCMCIA SCSI Card…］をクリックします。



3 ［OK］ボタンをクリックします。



「取り外しができません。」という旨のエラーメッセージが表示された

→ 使用中のアプリケーションを全て終了した後に、もう一度本手順を行います。

↓ それでもエラーとなる場合は、【パソコンの電源を切ってから取り外す】(P39)を行ってください。

4 PCSC-FをPCカードスロットから取り外します。

5 PCSC-Fに接続した全てのSCSI機器の電源を切ります。

終了手順ーその２

1 接続したSCSI機器にアクセスがないことを確認します。

2 コントロールパネルを開きます。

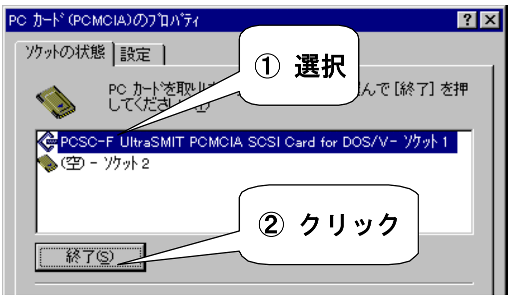
［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］の順にクリックします。

3 ［PCカード(PCMCIA)］アイコンを起動します。

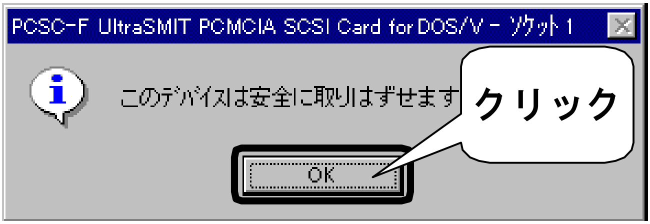


4 ［PCSC-F UltraSMIT PCMCIA …］を終了します。

「PCSC-F UltraSMIT PCMCIA SCSI Card XXXX」を選択して、［停止］（［終了］）ボタンをクリックします。



5 [OK] ボタンをクリックします。



「取り外しができません。」という旨のエラーメッセージが表示された

→ 使用中のアプリケーションを全て終了した後に、もう一度本手順を行います。

→ それでもエラーとなる場合は、【パソコンの電源を切ってから取り外す】(P39)を行ってください。

6 PCSC-FをPCカードスロットから取り外します。

7 PCSC-Fに接続した全てのSCSI機器の電源を切ります。

インストールした情報を削除するには

ここでは、Windows98/95にインストールされたPCSC-Fドライバの情報を削除する（アンインストール）方法を説明します。
次のような場合には、下記の手順に従ってインストール情報を削除してください。

・【確認しよう】(P24)の手順で正常に認識されない場合
・動作がおかしい場合
・PIOモード(PC-9821Ne)から他の転送モードに変更する場合、またはその逆

1 PCSC-FをPCカードスロットから取り外します。

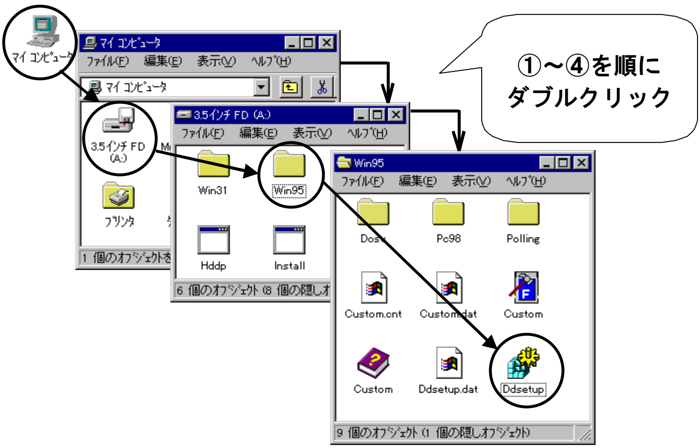
取り外す方法については【Windows98/95を使用中に取り外す】(P39)をご参照ください。

> PCSC-Fが挿入されていると、正常に作業が行えません。
> 必ず、PCSC-Fを取り外してください。

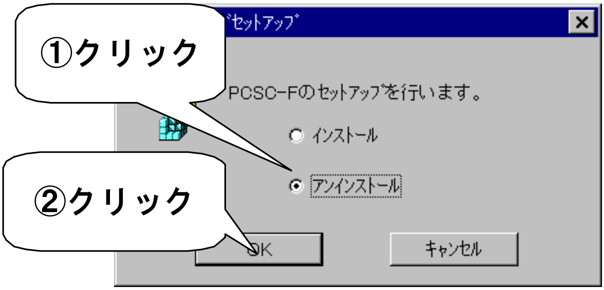
2 「PCSC-Fシリーズサポートソフト」を挿入します。

3 [Ddsetup.exe] を起動します。

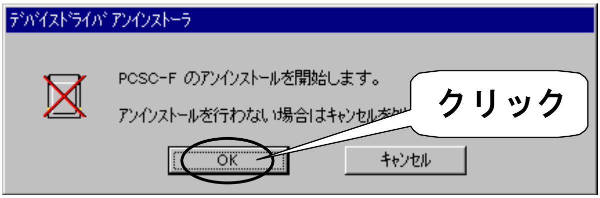
[マイコンピュータ] → [3.5インチFD] → [WIN95] → [Ddsetup.exe] を起動します。



4 [ｱﾝｲﾝｽﾄｰﾙ] を選択後、 [OK] ボタンをクリックします。



5 [OK] ボタンをクリックします。



6 [OK] ボタンをクリックします。



7 「PCSC-Fシリーズサポートソフト」を抜きます。

続く

8 [はい] ボタンをクリックします。

⇒Windows98/95が再起動されます。



以上で、インストール情報の削除（アンインストール）は終了です。

次に【インストールしよう】(P18)を参照の上、もう1度インストールし直してください。

Windows98/95を再セットアップする場合

ここではPCSC-Fに接続したCD-ROMドライブから、パソコンに付属した起動ディスク（再セットアップ用ディスク）を利用して、Windows98/95を再セットアップする方法について説明します。

本作業を行う際には、Windows98/95が動作する環境があることが前提となります。

再セットアップの前に(P48)

再セットアップに必要な起動ディスクを作ります。

↓

接続しよう(P55)

PCSC-FをCD-ROMドライブ及びパソコンと接続します。

↓

再セットアップしよう(P57)

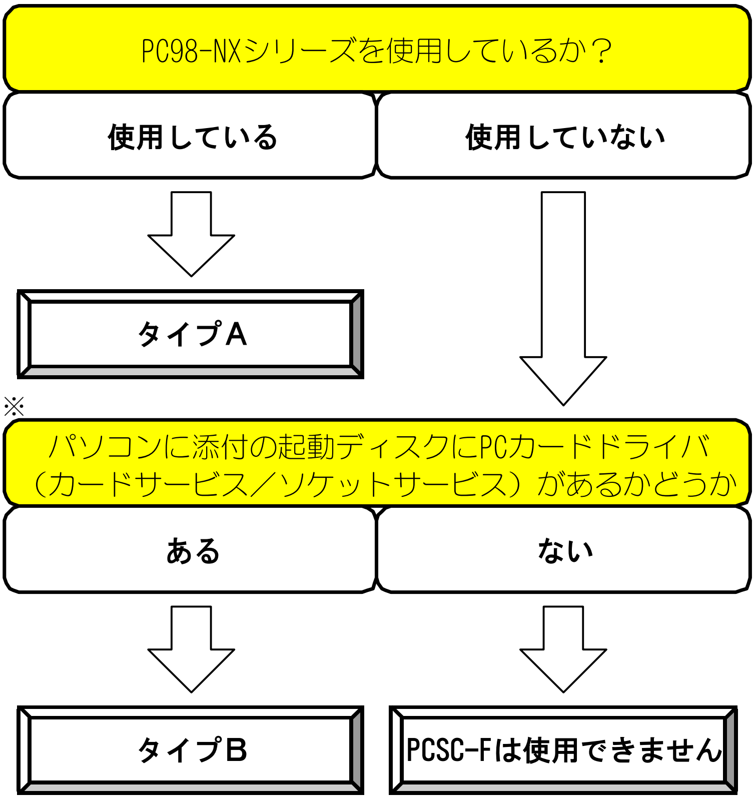
Windows98/95を再セットアップする手順を説明します。

再セットアップの前に

再セットアップの前に、以下の作業を行います。

作業タイプを確認しよう

起動用ディスクでPCSC-Fを使用するための作業手順は、ご使用の環境によってそれぞれ異なります。
以下の図をご覧になり、自分の作業のタイプを決定してください。



※ PCカードドライバがあるかどうかについてはパソコンに付属の取扱説明書を参照するかパソコンメーカーにご確認ください。

起動用ディスクの実行用ディスクを作ろう

1.44MBでフォーマット済みの空きフロッピーディスク(3.5インチ2HD)を用意します。パソコン本体に添付の起動用ディスクのバックアップディスクを作成してください。

（作成方法の詳細は、【実行用ディスクを作ろう】(P14)を参照してください。その際「サポートソフトウェア」を「起動用ディスク」と読み替えてください。）

ここで作成したバックアップディスクを、以後の作業に使用します。

起動用ディスクを書き換えよう

起動用ディスクを書き換えます。
ここの作業は作業タイプによって異なります。前ページの【作業タイプを確認しよう】で確認したタイプにあった作業を行ってください。

タイプAの作業

[PC98-NXシリーズで使用する場合]

① 「**PCSC-Fシリーズサポートソフト**」を挿入します。

② ［スタート］ボタンを右クリックし、表示されたメニューから［エクスプローラ』をクリックします。
⇒エクスプローラが起動されます。

③ 任意のドライブ（ハードディスク等）を選択し、［ファイル］→［新規作成］→［フォルダ］の順にクリックします。
作成するフォルダ名は“**PCSCF**”とします。

続く

④ 「**PCSC-Fシリーズサポートソフト**」内の以下のファイルを③で作成した“**PCSCF**”フォルダへコピーします。

・PCSCF365.SYS
・SCF_ASPI.SYS
・SCSICD.SYS

⑤ 「**PCSC-Fシリーズサポートソフト**」を抜き、**起動ディスク**を挿入します。

⑥ ③で作成した“**PCSCF**”フォルダを開き、中にあるファイルを［**3.5インチ FD**］アイコン上へコピーします。

⑦ ［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［メモ帳］を起動します。

⑧ ［ファイル］→［開く］をクリックします。

⑨ 「ファイルの種類」を「すべてのファイル」にします。

⑩ 起動用ディスク内のCONFIG.SYSを開きます。

開きたいファイルが表示されていない場合	→	1) ［マイコンピュータ］をダブルクリックします。 2) ［表示］→［フォルダオプション］をクリックします。 3) ［表示］タブをクリックします。 4) 「登録されているファイルの拡張子は表示しない」のチェックをはずします。 5) 「ファイルの表示」で「すべてのファイルを表示する」を選択します。 6) ［OK］ボタンをクリックします。 7) 手順④から作業を再開します。

⑪ 太字の部分の３行を最終行に追加します。

```
FILES=20
BUFFERS=10
LASTDRIVE=Z
DEVICE=A:¥HIMEM.SYS
DOS=HIGH
DEVICE=A:¥BILING.SYS
DEVICE=A:¥JFONT.SYS  /MSG=OFF
DEVICE=A:¥JDISP.SYS   /HS=LC
DEVICE=A:¥JKEYB.SYS   /106
DEVICE=A:¥ANSI.SYS
DEVICE=A:¥PCSCF365.SYS   /V   /MA=D000
DEVICE=A:¥SCF_ASPI.SYS
DEVICE=A:¥SCSICD.SYS   /D:SCCD0001   /LUN
```

弊社製CDC-TX86を使用する場合 → CDC-TX86に付属のサポートソフトのSCCHANG.SYSドライバを組み込んでください。（詳細はCDC-TX86取扱説明書を参照）

⑫ ［ファイル］→［上書き保存］をクリックします。

⑬ 起動用ディスク内のAUTOEXEC.BATを⑧～⑩を参考にして開きます。

⑭ AUTOEXEC.BATを以下のように書き換えます。

```
@ECHO  OFF
A:¥SMARTDRV  /X
A:¥MSCDEX.EXE   /D:SCCD0001   /L:Q
A:¥SYSRESTV
```

⑮ ［ファイル］→［上書き保存］をクリックします。

⑯ 「メモ帳」を閉じます。

これで再セットアップ用**起動ディスク**が作成されました。
【接続しよう】(P55)にお進みください。

タイプＢの作業

[PC98-NXシリーズ以外のPCカードドライバ（カードサービス／ソケットサービス）がある機種で使用する場合]

① 「**PCSC-Fシリーズサポートソフト**」を挿入します。

② ［スタート］ボタンを右クリックし、表示されたメニューから［エクスプローラ』をクリックします。
⇒エクスプローラが起動されます。

③ 任意のドライブ（ハードディスク等）を選択し、［ファイル］→［新規作成］→［フォルダ］の順にクリックします。
作成するフォルダ名は“**PCSCF**”とします。

④ 「**PCSC-Fシリーズサポートソフト**」内の以下のファイルを③で作成した“**PCSCF**”フォルダへコピーします。

・SCF_ENBL.SYS
・SCF_ASPI.SYS
・SCSICD.SYS

⑤ 「**PCSC-Fシリーズサポートソフト**」を抜き、**起動ディスク**を挿入します。

⑥ ③で作成した“**PCSCF**”フォルダを開き、中にあるファイルを［**3.5インチ FD**］アイコン上へコピーします。

⑦ ［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［メモ帳］を起動します。

⑧ ［ファイル］→［開く］をクリックします。

⑨ 「ファイルの種類」を「すべてのファイル」にします。

⑩ 起動用ディスク内の弊社ドライバを記述するファイル（CONFIG.SYSなど）を開きます。

変更したいファイルが表示されていない場合	→	1）［マイコンピュータ］をダブルクリックします。 2）［表示］→［フォルダオプション］をクリックします。 3）［表示］タブをクリックします。 4）「登録されているファイルの拡張子は表示しない」のチェックをはずします。 5）「ファイルの表示」で「すべてのファイルを表示する」を選択します。 6）［OK］ボタンをクリックします。 7）手順④から作業を再開します。

「変更するファイル」は、パソコン本体付属の取扱説明書を参照またはパソコンメーカーにお問い合わせください。

⑪ 以下の３行を必要な場所に追加します。
わからない場合は、最終行に追加します。

```
DEVICE=A:¥SCF_ENBL.SYS    /V    /MEM=0
DEVICE=A:¥SCF_ASPI.SYS
DEVICE=A:¥SCSICD.SYS    /D:SCCD0001    /LUN
```

弊社製CDC-TX86を使用する場合	→	CDC-TX86に付属のサポートソフトのSCCHANG.SYSドライバを組み込んでください。（詳細はCDC-TX86取扱説明書を参照）

⑫ ［ファイル］→［上書き保存］をクリックします。

続く

⑬ 起動用ディスク内のMSCDEX.EXEが記述されているファイル（AUTOEXEC.BATなど）を⑧～⑩を参考にして開きます。

「変更するファイル」は、パソコン本体付属の取扱説明書を参照またはパソコンメーカーにお問い合わせください。

⑭ MSCDEX.EXEの記述行のオプション（/D:xxx）を「/D:SCCD0001」に書き換えます。

⑮ ［ファイル］→［上書き保存］をクリックします。

⑯ 「メモ帳」を閉じます。

これで再セットアップ用**起動ディスク**が作成されました。
次ページの【接続しよう】にお進みください。

接続しよう

PCSC-Fと各SCSI機器の接続方法について説明します。

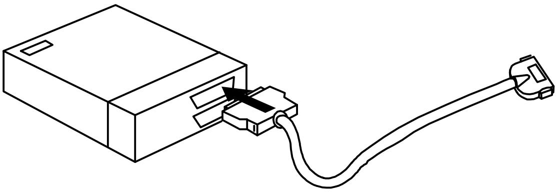
1 CD-ROMドライブの電源をOFFにします。

2 CD-ROMドライブのSCSI-IDの設定を行います。

SCSI-IDは「0～6」内に設定します。
設定の詳細は、各SCSI機器の取扱説明書をご覧ください。

3 CD-ROMドライブに本製品添付の専用SCSIケーブルを接続します。

ケーブルの向きを充分確認し、「カチッ」と音がするまで押し込んで接続します。

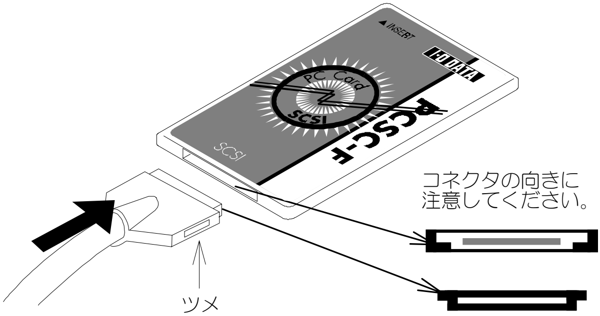


1) **他社製のSCSIケーブルは、絶対に使用しないでください。**
PCSC-Fが破壊される恐れがあります。
2) **CD-ROMドライブと専用SCSIケーブルが接続できない場合**
別売オプションの専用SCSIケーブル(P13)を用意してください。
変換コネクタは使用しないでください。

続く

4 PCSC-Fに付属の専用SCSIケーブルを接続します。

コネクタの向きを充分確認し、「カチッ」と音がするまで押し込んで接続します。



PCSC-Fから専用SCSIケーブルを外す際は、ケーブルの両側のツメを押しながら水平にカードから抜いてください。

5 CD-ROMドライブに付属のターミネータを取り付けます。

再セットアップしよう

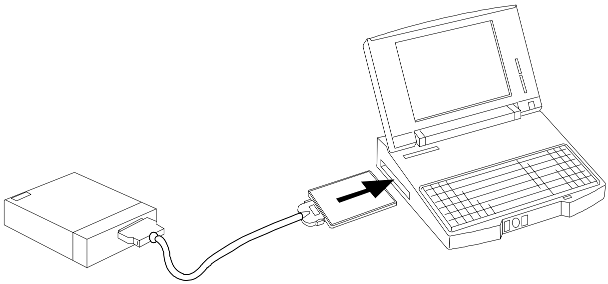
ここでは、PCSC-Fに接続したCD-ROMドライブからWindows98/95を再セットアップする手順について説明します。

1) PCSC-FはOS起動前にPCカードスロットに挿入し、パソコンの電源を落とすまでは抜かないでください。
2) PCカードスロットにはPCSC-Fのみ挿入してください。
他のPCカードは挿入しないでください。

1 PCSC-Fに接続したCD-ROMドライブの電源を入れます。

2 PCSC-Fをパソコンのカードスロットに差し込みます。

PCSC-Fをラベルが貼ってある面を上にしてパソコンのPCカードスロットへまっすぐに差し込みます。確実に差し込み、軽く引いても抜けないことを確認します。



3 起動用ディスクをパソコンに挿入します。

【再セットアップの前に】(P48)で書き換えた起動用ディスクを挿入します。

4 パソコンの電源を入れます。

続く

5 パソコン本体取扱説明書にしたがって再セットアップをします。

起動ディスクを使った再セットアップが始まらなかった場合は、以下をご確認ください。

①起動ディスクから起動し、「Starting Windows98(95)」と表示されたときに［F8］キーを押します。
⇒メニューが表示されます。
※［F8］キーを押してもメニューが表示されない場合は、「最初に読み込まれるファイル（Config.sys,Autoexec.bat など）を１行ずつ確認しながら起動する方法」についてパソコンメーカーにご確認ください。

②メニューから「STEP-BY-STEP」を選択します。
⇒最初に読み込まれるファイル（Config.sys,Autoexec.bat など）を１行ずつ確認しながら起動できます。

③タイプＢで以下のエラーが表示される場合は、ご使用の環境ではPCSC-Fをご利用いただけません。
「SCF_ENBL:カードサービスが常駐していません」

④ ③以外のエラーが表示された場合は以下の内容を弊社サポートセンターまでご連絡ください。
●変更したファイルのすべての内容
●以下のファイルが読み込まれた際のメッセージ
・PCSCF365.SYS（または、SCF_ENBL.SYS）
・SCFASPI.SYS
・SCSICD.SYS
・MSCDEX.EXE

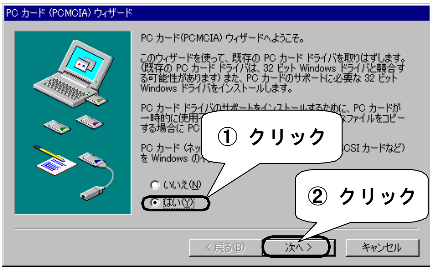
ここからは、OSにより手順が異なります。

● **Windows98の場合……………………………………………次ページ**
● **Windows95の場合………………………………………………P63**

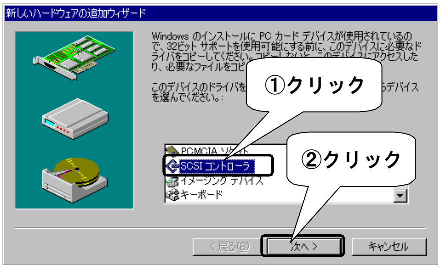
Windows98の場合

Windows98のインストール中に“PCカード（PCMCIA）ウィザード”が起動されます。起動されましたら、以下の手順を行ってください。

1 [はい] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

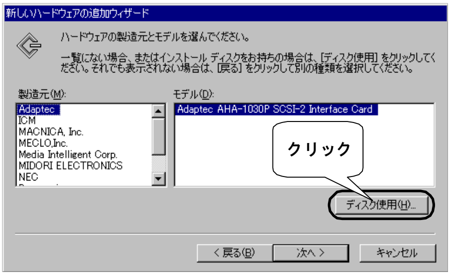


2 [SCSIコントローラ]、[次へ] ボタンをクリックします。



続く

3 ［ディスク使用］ボタンをクリックします。



4 「配布ファイルのコピー元」に以下のように入力します。

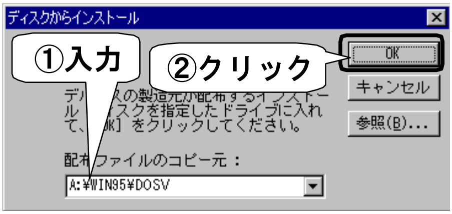
・PC98-NXシリーズ及びDOS/Vマシンの場合

A:¥WIN95¥DOSV　(ﾌﾛｯﾋﾟｰﾃﾞｨｽｸﾄﾞﾗｲﾌﾞがAドライブの場合)

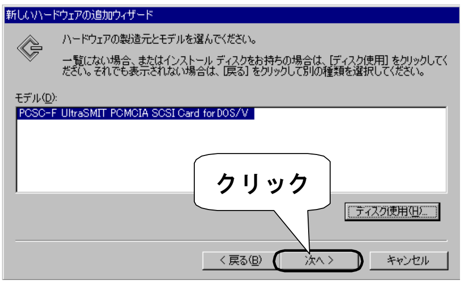
・PC-9800シリーズの場合

C:¥WIN95¥PC98　(ﾌﾛｯﾋﾟｰﾃﾞｨｽｸﾄﾞﾗｲﾌﾞがCドライブの場合)

入力したら、［OK］ボタンをクリックします。



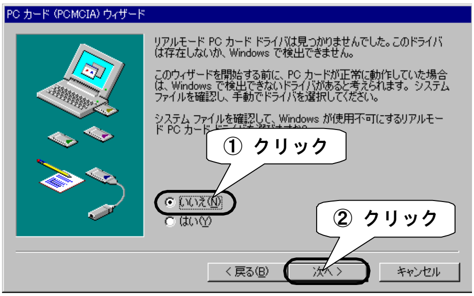
5 ［次へ］ボタンをクリックします。



6 ［完了］ボタンをクリックします。



7 ［いいえ］を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。



8 ［完了］ボタンをクリックします。



続く

9 「PCSC-Fシリーズサポートソフト」を抜き、再起動します。

この後、Windows98の再セットアップ作業が続きます。
パソコン本体取扱説明書にしたがって作業を行ってください。
Windows98再セットアップ後は、そのままPCSC-Fをお使いください。

PCSC-Fの詳細な使用方法については、【接続しよう】(P21)以降をご覧ください。

Windows95の場合

Windows95のインストールが終了し、Windows95の再起動が終わったら以下の手順を行ってください。

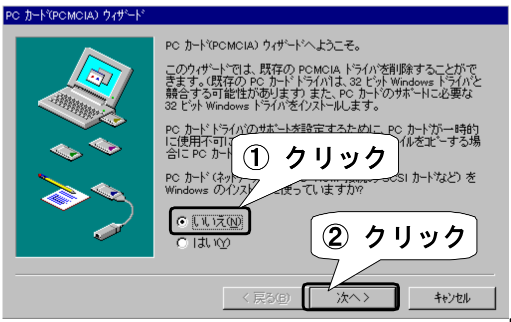
1 ［コントロールパネル］を開きます。

［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］の順にクリックします。

2 ［PCカード(PCMCIA)］アイコンを起動します。

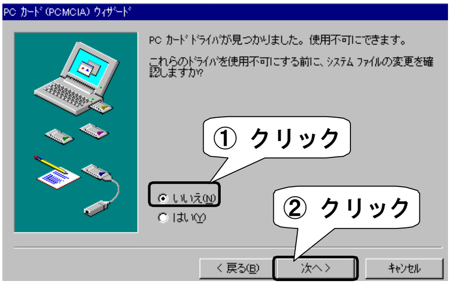


3 ［いいえ］を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。

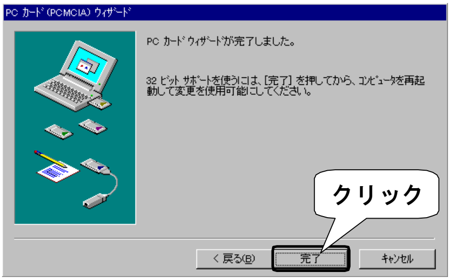


続く

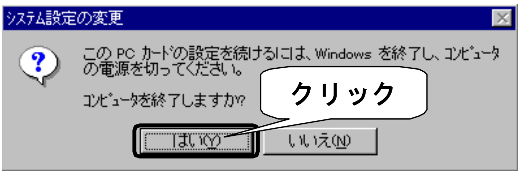
4 ［いいえ］を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。



5 ［完了］ボタンをクリックします。



6 ［はい］ボタンをクリックします。



7 パソコンの電源をOFFにし、PCSC-Fを抜きます。

以上で設定は完了です。

この後、Windows95上でPCSC-Fを使用する場合は、【インストールしよう】(P18)を参照してください。

Windows3.1,MS-DOSでご使用の場合

ここではWindows3.1及びMS-DOS(PC DOS)で使用する際の設定について説明します。

インストールの前に(P66)

インストール前の確認事項を説明します。

↓

インストールしよう(P67)

PCSC-Fのインストール方法を説明します。

↓

接続しよう(P72)

PCSC-FをSCSI機器及びパソコンに接続します。

↓

フォーマットしよう(P75)

SCSI機器をフォーマットする方法について説明します。

↓

PCSC-Fを抜き挿ししてみよう(P76)

PCSC-Fを接続したり、取り外す際の手順について説明します。

インストールの前に

PCSC-F用ドライバをインストールする前に、一般的なPCカードを使用するために必要となるPCカードドライバ（ソケットサービス/カードサービス）がパソコンにインストールされていることが必要です。まずPCカードドライバがインストールされている事を確認してください。インストールされていない場合は、パソコン本体付属または別売のPCカードドライバのインストールを行ってください。
PCカードドライバに関しては、各パソコンメーカーにお問い合わせください。

> PC-9801NX/C,NL/R,NS/A・PC-9821Neでは、別売のPCカードサポートソフトが必要となります。

インストールしよう

ここでは、PCSC-FをWindows3.1及びMS-DOS上で動かすためのインストール作業について説明します。

> PCSC-Fのインストーラはマルチコンフィグレーション（CONFIG.SYSの内容が分かれているもの）に対応していません。マルチコンフィグレーションの場合、インストール先ディレクトリにサンプルが作成されますので、サンプルを参考にし、マルチコンフィグレーション環境のCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATに反映させてください。

1 MS-DOSを起動します。

Windows3.1が起動している場合は、終了してください。

2 「PCSC-Fシリーズサポートソフト」を挿入します。

3 INSTALL.EXEを実行します。

「PCSC-Fシリーズサポートソフト」内のINSTALL.EXEを実行します。
「A:」（フロッピーディスクドライブがAの場合）と入力して▪キーを押し、「INSTALL」と入力して▪キーを押します。

> 以下のエラーが表示された場合は、パソコンにカードサービスが組み込まれていません。カードサービスを組み込み、パソコンを再起動した後、もう一度本作業を行ってください。
> カードサービスの詳細については、各パソコンメーカーにお問い合わせください。
>
> - **「組み込まれているカードサービスには対応していません。リリース2.0以上のカードサービスを組み込んでください。」**
> - **「カードサービスが組み込まれていません。このプログラムを実行する前に、カードサービスを組み込む必要があります。」**

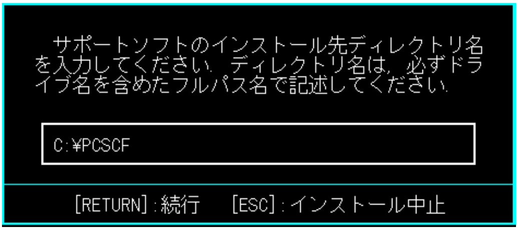
続く

4 ▪を押します。

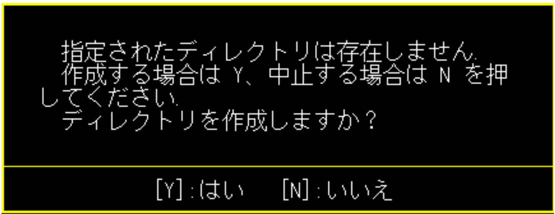
INSTALL.EXEの説明が表示されます。
そのまま、▪キーを押します。

5 インストール先ディレクトリを入力し、▪キーを押します。

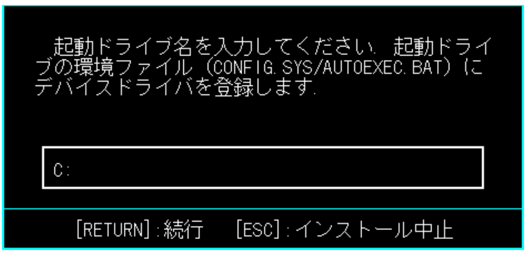
通常は、そのまま▪キーを押します。



6 下の画面が表示されたら、[Y] キーを押します。

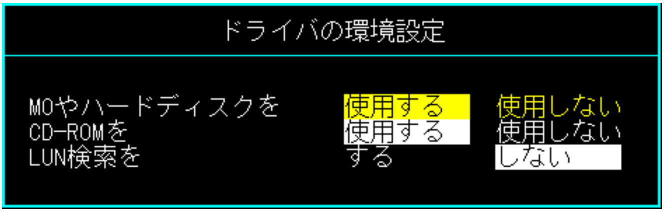


7 起動ドライブを入力し、▪キーを押します。



8 ドライバの環境設定を行い、・キーを押します。

使用するSCSI機器に応じて各項目を設定します。



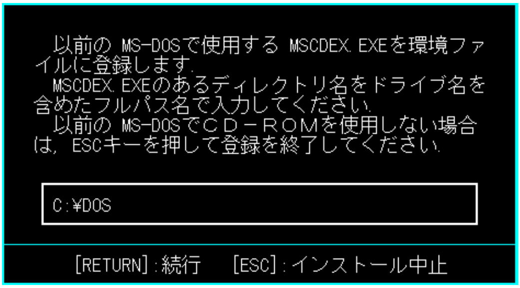
使用するSCSI機器	設定項目
ハードディスク 3.5インチMO ﾘﾑｰﾊﾞﾌﾞﾙﾊｰﾄﾞﾃﾞｨｽｸ Zip	[MOやハードディスクを] ーー＞ [使用する]を選択
CD-ROM	[CD-ROMを] ーー＞ [使用する]を選択
PD	[MOやハードディスクを] ーー＞ [使用する]を選択 [CD-ROMを] ーー＞ [使用する]を選択 [LUN検索を] ーー＞ [する]を選択
CD-ROMチェンジャ※	[CD-ROMを] ーー＞ [使用する]を選択 [LUN検索を] ーー＞ [する]を選択
スキャナ	設定の必要なし（[使用しない]及び[しない]を選択）

※ 弊社製CDC-TX86の場合は、[使用しない]を選択してください。
（CDC-TX86のドライバを本作業終了後にインストールしてください。
インストールの詳細は、CDC-TX86取扱説明書を参照してください。）

続く

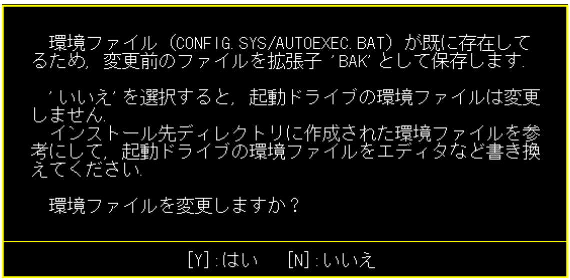
9 以下の画面が表示されたら、以下の作業を行います。

CD-ROMドライブを使用するには、CD-ROMエクステンション（MSCDEX.EXE）が必要となります。MSCDEX.EXEが見つからない場合には、以下の画面が表示されます。
その場合は、MSCDEX.EXEの存在するディレクトリ名、またはMSCDEX.EXE及びMSCDEX.EX_が入ったフロッピーディスクドライブ名を入力します。
MSCDEX.EXEをお持ちでない場合には、［ESC］キーを押せば作業を続行することができます。ただし、CD-ROMドライバの組み込みは、行われません。
（MSCDEX.EXEに関しては各パソコンメーカーにお問い合わせください。）



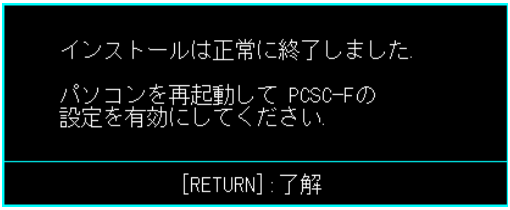
10 CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの変更のため、[Y]キーを押します。

［N］キーを押した場合は、CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATにPCSC-F用ドライバをテキストエディタ（SEDIT.EXEなど）で組み込む必要があります。
（編集内容に関しては、【・ PCSC-Fドライバの組み込み例】(P86)を参照してください。）



11 ・キーを押し、パソコンを再起動します。

再起動後に、PCSC-Fが使用できるようになります。



1)Windows3.1上で、スキャナやWindows3.1用SCSIユーティリティなどを使用する際に、Windows3.1用ASPIドライバ（WINASPI.DLL）が必要となる場合があります。WINASPI.DLLのインストールに関しては、【・ Windows3.1用ASPIドライバのインストール】(P93)を参照してください。
2)弊社製CDC-TX86をお使いの場合は、CDC-TX86に付属のサポートソフトのSCCHANG.SYSドライバを組み込んでください。
（詳細については、CDC-TX86取扱説明書を参照してください。）

以上でインストールは終了です。

接続しよう

PCSC-Fと各SCSI機器の接続方法について説明します。

1 SCSI機器の電源をすべてOFFにします。

2 各SCSI機器のSCSI-IDの設定を行います。

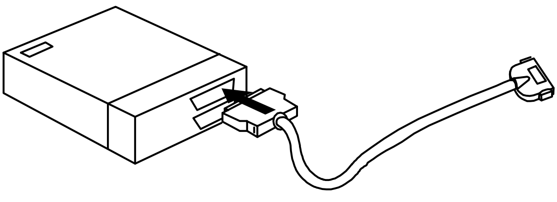
それぞれのSCSI機器は「0〜6」内で重ならないように設定します。
設定の詳細は、各SCSI機器の取扱説明書をご覧ください。

3 PCSC-FにSCSI機器を複数接続する場合は以下にご注意ください。

① SCSIケーブルは、長さ30cm以下のケーブル（弊社製別売オプションA50-A50-S,H50-H50-SまたはA50-H50-S等）を使用してください。
② Ultra SCSI対応ハードディスク（弊社製HDVS-Uシリーズなど）をご使用の際は2台目以降に接続してください。

4 SCSI機器の先端に付属の専用SCSIケーブルを接続します。

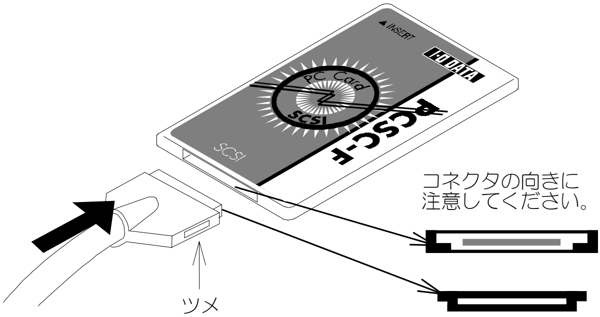
ケーブルの向きを充分確認し、「カチッ」と音がするまで押し込んで接続します。



1) **他社製のSCSIケーブルは、絶対に使用しないでください。**
PCSC-Fが破壊される恐れがあります。
2) **SCSI機器と専用SCSIケーブルが接続できない場合**
別売の専用SCSIケーブル(P13)を用意してください。
変換コネクタは使用しないでください。

3 PCSC-Fに付属の専用SCSIケーブルを接続します。

コネクタの向きを充分確認し、「カチッ」と音がするまで押し込んで接続します。



PCSC-Fから専用SCSIケーブルを外す際は、ケーブルの両側のツメを押しながら水平にカードから抜いてください。

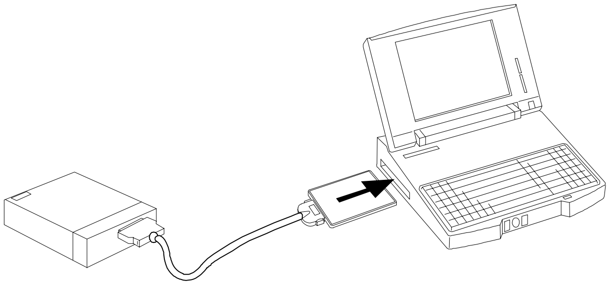
4 PCSC-Fに接続した各SCSI機器の電源をONにします。

SCSI機器の電源を入れてからPCSC-FをPCカードスロットに挿入してください。
PCSC-FをPCカードスロットに挿入後、SCSI機器の電源を入れてもSCSI機器が認識されません。

続く

5 PCSC-Fをパソコンのカードスロットへ挿入します。

PCSC-Fをラベルが貼ってある面を上にしてパソコンのPCカードスロットへまっすぐに差し込みます。確実に差し込み、軽く引いても抜けないことを確認してください。



6 パソコンの電源を入れます。

ドライバが正常にインストールされていれば、パソコンの電源を入れると、PCSC-Fは正しく認識され、PCSC-Fが使用できるようになります。

フォーマットしよう

PCSC-Fに接続したSCSI機器をフォーマットする方法を説明します。

ハードディスク

機種	方法
PC98-NX&DOS/V	ASPIFORMでフォーマット※1
PC-9800	MS-DOSのFORMATでフォーマット※2

※1 ASPIFORM.EXEでフォーマットされたドライブは、PCSC-F上以外では使用できなくなります。
ASPIFORM.EXEに関しては、【Windows98/95でご使用の場合】の【ASPIFORMでフォーマット】(P30)を参照してください。

※2 FORMAT.EXEを使ってフォーマットしたハードディスクは、PC98-NXシリーズ及びDOS/Vマシンに接続して使用できません。

MOディスク　リムーバブルHDD　PD　Zipドライブ

各SCSI機器の取扱説明書を参照し、各SCSI機器に付属のフォーマッタでフォーマットします。

付属のフォーマッタがない場合は、ASPIFORM.EXEを使ってフォーマットします。

ASPIFORM.EXEに関しては、【Windows98/95でご使用の場合】の【ASPIFORMでフォーマット】(P30)を参照してください。

PCSC-Fを抜き挿ししてみよう

ここでは、PCSC-Fを実際に使用する際の、電源をON/OFFする順番や注意事項について説明します。

PCSC-Fをパソコンに取り付ける

1. PCSC-Fに接続した全てのSCSI機器の電源を入れます。
2. PCSC-FをパソコンのPCカードスロットに差し込みます。
3. パソコンの電源を入れます。

パソコンの電源を切ってから取り外す

1. パソコンの電源を切ります。
2. PCSC-FをパソコンのPCカードスロットから抜きます。
3. PCSC-Fに接続した全てのSCSI機器の電源を切ります。

Windows3.1,MS-DOSを使用中に取り外す

PCSC-FはHOT PLUG(活線挿抜)に対応していますので、パソコンが動作中であっても、PCSC-Fの抜き取りが可能です。抜き取ったPCSC-Fをまた挿入すれば、SCSI機器をまた使用することが可能です。
ただし、抜き取りの際にはPCSC-F接続のSCSI機器にアクセスがないことを確認してください。（CD-ROMを接続している場合には、CD Player などを終了してから、PCSC-Fを取り外してください。）

> SCSI機器にアクセス中のPCSC-Fの抜き差しは絶対に行わないでください。ディスクの内容が破壊される恐れがあります。

付　録

カスタムユーティリティについて(P78)
カスタムユーティリティについて説明します。

DOSユーティリティについて(P81)
Windows3.1,MS-DOS用のユーティリティについて説明します。

DOSドライバ詳細(P86)
Windows3.1,MS-DOS用のドライバの詳しい説明、及び組み込み例です。

用語解説(P100)
本書内の用語について説明します。

困った時には(P102)
本製品を使用中に、トラブルがあったときにご覧ください。

ハードウェア仕様(P135)
本製品の仕様について説明します。

カスタムユーティリティについて

カスタムユーティリティは、PCSC-Fの状態を調べ、トラブルの解決に役立つ情報を表示するWindows98/95専用のユーティリティです。
PCSC-Fのデータ転送モードを変更することもできます。
（SCSI機器の動作が不安定な際に変更してお試しください。）

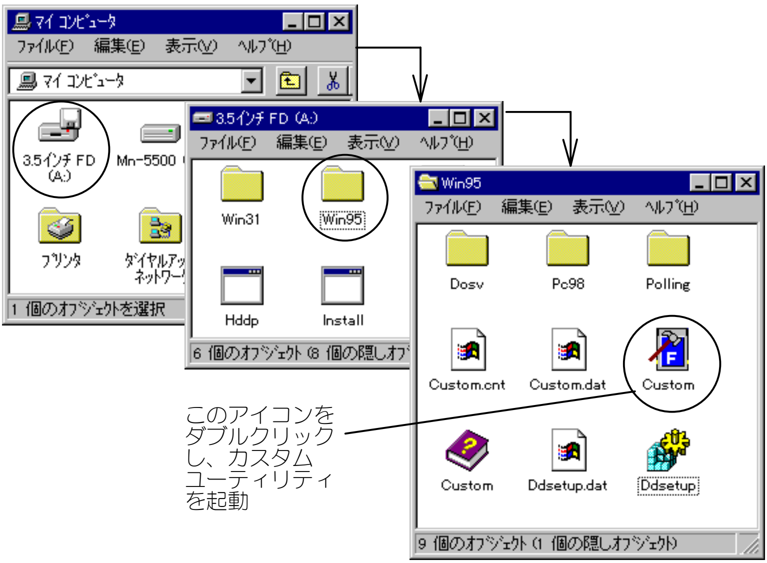
・ 起動方法

下記の手順で「PCSC-Fシリーズサポートソフト」内の[Custom.exe]をダブルクリックして、直接起動してください。

1 「PCSC-Fシリーズサポートソフト」を挿入します。

2 [CUSTOM] を起動します。

［マイコンピュータ］→［3.5インチFD］→［Win95］→［Custom］の順にクリックします。



以上で、カスタムユーティリティが起動します。

・ 使用方法

● 「設定」タブ



・ドライバ情報
PCSC-Fが使用するドライバ、バージョンを表示します。

・データ転送モード設定
現在の転送モードが表示されます。

モード	機能の説明
UltraSMIT(H)Mode	UltraSMIT転送による高速アクセスが可能です。内蔵FIFOを使用した自己診断により、最適な転送方式を自動決定します。PCSC-Fの性能を最大限に発揮できるモードです。（デフォルト値）
UltraSMIT(L)Mode	従来のSMIT方式による高速アクセスが可能です。
PIO(H)Mode	I/Oポートを使用したワードアクセス（16ﾋﾞｯﾄ）を行います。
PIO(L)Mode	I/Oポートを使用したバイトアクセス（8ﾋﾞｯﾄ）を行います。
PollingMode	割り込みの空きがない状態で動作させることができます。

〈モードの変更方法〉

① [▼]ボタンをクリックし、変更したい転送モードを選択します。

② [更新]または[OK]ボタンをクリックします。

③ Windows98/95を再起動するか、【PCSC-Fを抜き挿ししてみよう】(P39)を参照して、PCSC-Fの抜き挿しを行ってください。

1) 動作が不安定な場合、転送モードの変更を「UltraSMIT(L) Mode」→「PIO(H)Mode」→「PIO(L)Mode」→「PollingMode」の順にお試しください。
2) デバイスドライバが「PIOモード(PC-9821Ne)」の場合、転送モードの変更はできません。転送モードを変更したい場合は、【インストールした情報を削除するには】(P44)を参照して、ドライバの情報を削除後、他のデバイスドライバで再インストールしてください。

● 「情報」タブ

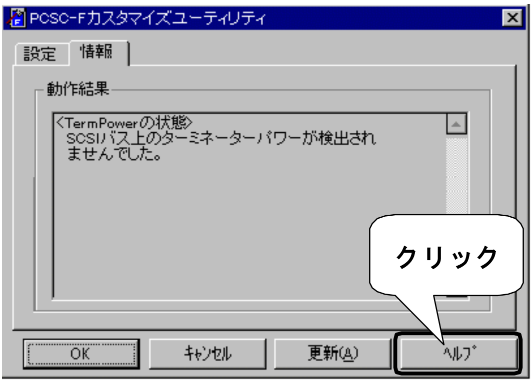
PCSC-Fが最後に動作した時の状態を表示します。
表示される情報は、PCSC-Fのエラー解決の手がかりになります。

「正常に動作しています。」
と表示された場合は、PCSC-Fが
正常に動作している状態です。



動作結果が「正常に動作しています」と表示されていても、実際の動作がおかしい場合は、PCSC-Fの自己診断機能で検出できない問題が発生しています。その場合は、転送モードを変更することにより問題を回避できる可能性があります。（変更方法は、前ページを参照）

下記のように、「動作結果」に何か警告が表示されている場合には、[ﾍﾙﾌﾟ]ボタンをクリックして、表示されたメッセージに従い、問題を解決してください。



DOSユーティリティについて

・ハードディスクパラメータの表示（HDDP.COM）[PC-9800シリーズ専用]

HDDP.COMプログラムは、PC-9800シリーズでのPCSC-Fのマルチベンダー機能を活用するための補助プログラムです。
通常は、今までPC-9800シリーズで使用していたハードディスクを PCSC-Fに接続し、[GRPH]+[P]キーでディスクを解析しディスクパラメータを登録させること（【・ SCSI HDパラメータ自動解析プログラム】(P83)参照）で、ハードディスクをフォーマットし直すことなくアクセスできる様になります。
何らかの理由でパラメータ自動解析が失敗した場合には、HDDP.COMをご使用ください。HDDP.COMで取得したパラメータをPCSC-Fに手動設定（「SCSI HDパラメータ自動解析プログラム」で登録）することで、同様にアクセスすることが可能となります。
以下はHDDP.COMの使用手順です。

1 **ハードディスクを以前のパソコン環境に接続します。**

2 **ハードディスクおよびパソコンの電源をONにします。**

3 **「PCSC-Fシリーズサポートソフト」を挿入します。**

4 **HDDP.COMを起動します。**

以下のように入力し、・キーを押します。

A:¥HDDP.COM（フロッピーディスクドライブがAの場合）

5 表示されたディスクパラメータをメモします。

HDDP.COMの表示例 ）

SCSI-ID	△
シリンダ数	△△△
ヘッド数	△△
セクタ数	△△
セクタ長（Bytes）	△△△
ドライブ容量(MB)	△△△

6 パソコン及びハードディスクの電源をOFFにします。

7 ハードディスクをPCSC-Fに接続します。

8 PCSC-Fを、電源をOFFにしたパソコンに接続します。

9 ハードディスクおよびパソコンの電源をONにします。

10 「SCSI HDパラメータ自動解析プログラム」を起動します。

「SCSI HDパラメータ自動解析プログラム」画面で紙に書き写したディスクパラメータを登録します。
（次ページの【・ SCSI HDパラメータ自動解析プログラム】参照。）
終わりましたら、設定画面を閉じてください。

以上で設定終了です。

ハードディスクからシステムを起動し、ディスクアクセスが正常に行えることを確認してください。

マルチベンダー機能を利用してディスクパラメータを変更したハードディスクは、Windows98/95では正常にアクセスできません。
Windows98/95をご使用になる場合には、登録したディスクパラメータを削除後（以下の【▪ SCSI HDパラメータ自動解析プログラム】参照）、再度フォーマットを行った後でご利用ください。

▪ SCSI HDパラメータ自動解析プログラム [PC-9800シリーズ専用]

他社製のインターフェイスボードを使用してフォーマットされたハードディスクに正常にアクセスできない場合には、PCSC-Fのマルチベンダー機能※（ディスクパラメータ登録）をお使いください。

※ PCSC-Fには、他社製のインターフェイスボードを使用してフォーマットされたハードディスクを、PC-9800シリーズ上でフォーマットし直すことなしにPCSC-Fで使用するための機能（マルチベンダー機能）があります。

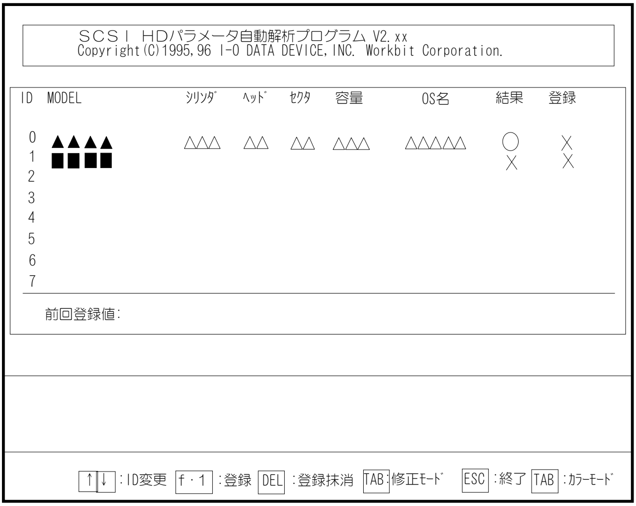
1) 予め、CONFIG.SYSにPCSC-F専用ハードディスク用ドライバ（BIOSDISK.SYS）が組み込まれていることを前提としています。
2) マルチベンダー機能を利用したハードディスクは、Windows98/95では正常にアクセスすることができません。
ハードディスクをWindows98/95でもご使用になる場合には、登録したディスクパラメータを削除してからフォーマット後、Windows98/95でご使用ください。

以下はディスクパラメータの変更及び削除の手順です。

1 パソコンの電源をONにします。

2 IDスキャンが始まったら、［GRPH］+［P］キーを押します。

3 [SCSI HDパラメータ自動解析プログラム]が起動します。



[↑][↓]キー	設定を行うIDを選択します。
[f･1]キー	ディスクパラメータの登録を行います。
[DEL]キー	登録したディスクパラメータの削除を行います。(Windows98/95で使用する時などに削除を行います。)
[HELP]キー	ディスクパラメータの修正モードに移ります。
[ESC]キー	設定を終了します。
[TAB]キー	画面モード(カラーおよびモノクロ)を変更します。

続く

4 ハードディスクの「結果」を確認し、設定します。

「結果」が○だった場合

ハードディスクのSCSI-IDの位置に［↑］［↓］キーで移動し、［f･1］キーを押して登録します。

「結果」が×だった場合

HDDP.COMでハードディスクのパラメータを調査してください。（【▪ ハードディスクパラメータの表示】(P81)参照）

調査後、再度「SCSI HDパラメータ自動解析プログラム」を起動し、[HELP]キーを押してディスクパラメータ修正モードに移ります。修正（設定）したいデータ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数）位置に［←］［→］キーで移動し▪キーを押します。修正（設定）したいデータを入力し、▪キーを押すとデータが設定されます。データをすべて修正（設定）したら、［f･1］キーでデータの登録を行います。

5 「SCSI HDパラメータ自動解析プログラム」を閉じます。

6 パソコンを再起動します。

以上で設定は完了です。

DOSドライバ詳細

▪ PCSC-Fドライバの組み込み例

PCSC-Fシリーズサポートソフトが動作するためには、まずPCカードを利用するためのPCカードドライバ(ソケットサービス/カードサービス)がCONFIG.SYSに組み込まれている必要があります。
組み込まれていない場合、パソコン本体付属のPCカードドライバの組み込みを行ってください。

ここでは、各機種毎でCD-ROMを使用する場合のPCカードドライバ（ソケットサービス/カードサービス）及びPCSC-Fシリーズ用ドライバをCONFIG.SYSへ組み込む例を示しています。CD-ROM以外の他のSCSI機器を使用する場合には、PCSC-Fの組み込むドライバが異なります。（次ページ以降のCONFIG.SYSの例の「PCSC-F専用CD-ROMドライブ用ドライバ(SCSICD.SYS)」の個所が接続する機器によって異なります。）
各SCSI機器に応じて、組み込むドライバを変更してください。
（【▪ 各SCSI機器のドライバ】(P91)参照）

1) CD-ROM、PD、CD-ROMチェンジャを使用する場合は、CD-ROMエクステンション「MSCDEX.EXE」をAUTOEXEC.BATに組み込む必要があります。
   <AUTOEXEC.BATの例>
   ¥DOS\MSCDEX.EXE /D:SCF001
2) **次ページ以降の「メモリマネージャ(EMM386.EXE,弊社製VMM386.EXE)等」のアドレス指定について**
   CONFIG.SYS内のメモリマネージャには、通常アドレス範囲の指定が必要です。
   本製品はカード属性情報（タプル）を512バイト持っていて、この情報を読み出すためにアドレス範囲の指定が必要となります。

■DOS/Vマシン

●Phoenix社の場合(EPSON Direct NT-500等)

DEVICE=C:¥DOS¥HIMEM.SYS
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE　X=C800-CFFF　（メモリマネージャ）

（弊社 VMM386.EXE の場合
C:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=C8-C8,C9-CF）

DEVICE=C:¥PCM3¥CNFIGNAM.EXE /DEFAULT
DEVICE=C:¥PCM3¥PCMSS.EXE　（ソケットサービス）
DEVICE=C:¥PCM3¥PCMCS.EXE　（カードサービス）
DEVICE=C:¥PCM3¥PCMRMAN.SYS
DEVICE=C:¥PCM3¥PCMSCD.EXE
DEVICE=C:¥PCSCF¥SCF_ENBL.SYS　/PAUSE　/V /IO=0110　（PCSC-F専用 PCカードドライバ）
DEVICE=C:¥PCSCF¥SCF_ASPI.SYS
DEVICE=C:¥PCSCF¥SCSICD.SYS　/D:SCF001　/ASPI　（PCSC-F専用 CD-ROMドライブ用ドライバ）

↑ CD-ROM以外のSCSI機器を使用する場合は、【・　各SCSI機器のドライバ】(P91)を参照してこの箇所を各SCSI機器のドライバに変更してください。

●SystemSoft社の場合(COMPAQ CONTURA 400等)

DEVICE=C:¥DOS¥HIMEM.SYS
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE　X=D000-DFFF　（メモリマネージャ）

（弊社 VMM386.EXE の場合
C:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=D0-DF）

DEVICE=C:¥CARDSOFT¥SSVLSI.EXE（ソケットサービス）
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥PCMSMIX.EXE
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CS.EXE　（カードサービス）
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.EXE
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CARDID.EXE C:¥CARDSOFT¥CARDID.INI
DEVICE=C:¥PCSCF¥SCF_ENBL.SYS　/PAUSE　/V /IO=0110　（PCSC-F専用 PCカードドライバ）
DEVICE=C:¥PCSCF¥SCF_ASPI.SYS
DEVICE=C:¥PCSCF¥SCSICD.SYS　/D:SCF001　/ASPI　（PCSC-F専用 CD-ROMドライブ用ドライバ）

∨

●IBM社の場合(ThinkPad 230Cs等)

DEVICE=C:¥DOS¥HIMEM.SYS
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE　X=C800-CFFF　（メモリマネージャ）

（弊社 VMM386.EXE の場合
C:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=C8-CF）

DEVICE=C:¥EZGOING¥IBMDSS01.SYS /M　（ソケットサービス）
DEVICE=C:¥EZGOING¥IBMD0SCS.SYS　（カードサービス）
DEVICE=C:¥EZGOING¥DICRMU01.SYS /MA=C800-CFFF
DEVICE=C:¥EZGOING¥AUTODRV.SYS C:¥EZGOING¥AUTODRV.INI
DEVICE=C:¥PCSCF¥SCF_ENBL.SYS　/PAUSE　/V
/IO=0110　（PCSC-F専用
PCカードドライバ）
DEVICE=C:¥PCSCF¥SCF_ASPI.SYS
DEVICE=C:¥PCSCF¥SCSICD.SYS　/D:SCF001　/ASPI　（PCSC-F専用
CD-ROMドライブ用
ドライバ）

CD-ROM以外のSCSI機器を使用する場合は、
【・ 各SCSI機器のドライバ】(P116)を
参照してこの箇所を各SCSI機器のドライバ
に変更してください。

■PC-9800シリーズ

●PC-9801NX/C,NS/A,NL/R,PC-9821Neの場合

（別売のNEC製PCカードサポートソフトウェアを使用する場合）

```
DEVICE=A:¥DOS¥HIMEM.SYS            （メモリマネージャ
DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.EXE            弊社 VMM386.EXE の場合
                                     A:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE）
DEVICE=A:¥PCCARD¥SSMECIA.SYS  （ソケットサービス）
DEVICE=A:¥PCCARD¥CS.EXE        （カードサービス）
DEVICE=A:¥PCCARD¥CSALLOC.EXE A:¥PCCARD¥CSALLOC.INI
DEVICE=A:¥PCCARD¥CARDID.EXE A:¥PCCARD¥CARDID.INI
DEVICE=A:¥PCSCF¥SCF_ENBL.SYS  /PAUSE  /V    （PCSC-F専用
DEVICE=A:¥PCSCF¥SCF_ASPI.SYS                  PCカードドライバ）
DEVICE=A:¥PCSCF¥SCSICD.SYS  /D:SCF001        （PCSC-F専用
/ASPI                                          CD-ROMドライブ用
                                               ドライバ）
```

CD-ROM以外のSCSI機器を使用する場合は、【・ 各SCSI機器のドライバ】（P91）を参照してこの箇所を各SCSI機器のドライバに変更してください。

●PC-9821Np以降に発売された機種の場合

```
DEVICE=A:¥DOS¥HIMEM.SYS                     （メモリマネージャ）
DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.EXE  /E=DC00-
DFFF
               （弊社 VMM386.EXE の場合
                 A:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=DC-DF）
DEVICE=A:¥DOS¥SSDRV.SYS   （ソケットサービス）
DEVICE=A:¥DOS¥CS.EXE      （カードサービス）
DEVICE=A:¥DOS¥CSALLOC.EXE A:¥DOS¥CSALLOC.INI
DEVICE=A:¥DOS¥CARDID.EXE A:¥DOS¥CARDID.INI
DEVICE=A:¥PCSCF¥SCF_ENBL.SYS  /PAUSE  /V    （PCSC-F専用
DEVICE=A:¥PCSCF¥SCF_ASPI.SYS                  PCカードドライバ）
DEVICE=A:¥PCSCF¥SCSICD.SYS  /D:SCF001        （PCSC-F専用
/ASPI                                          CD-ROMドライブ用
                                               ドライバ）
```

CD-ROM以外のSCSI機器を使用する場合は、【・ 各SCSI機器のドライバ】（P91）を参照してこの箇所を各SCSI機器のドライバに変更してください。

●PC-486NOTE AU,AV,AT, PC-586NOTE ATの場合

```
DEVICE=A:¥DOS¥HIMEM.SYS
DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.EXE /E=D000-D8FF , DF00-DFFF   (メモリマネージャ)

        (弊社 VMM386.EXE の場合
         A:¥MDEV¥IOSPRO¥VMM386.EXE /ROM=D0-D8,DF-DF)

DEVICE=A:¥CARDSOFT¥SS.EXE   ( ソケットサービス )
DEVICE=A:¥CARDSOFT¥CS.EXE   ( カードサービス )
DEVICE=A:¥CARDSOFT¥CSALLOC.EXE A:¥CARDSOFT¥CSALLOC.INI
INSTALL=A:¥CARDSOFT¥CARDID.EXE A:¥CARDSOFT¥CARDID.INI
DEVICE=A:¥PCSCF¥SCF_ENBL.SYS /PAUSE /V   (PCSC-F専用
DEVICE=A:¥PCSCF¥SCF_ASPI.SYS              PCカードドライバ)
DEVICE=A:¥PCSCF¥SCSICD.SYS /D:SCF001     (PCSC-F専用
/ASPI                                     CD-ROMドライブ用
                                          ドライバ)
```

CD-ROM以外のSCSI機器を使用する場合は、
【・ 各SCSI機器のドライバ】(P91)を
参照してこの箇所を各SCSI機器のドライバ
に変更してください。

・ 各SCSI機器のドライバ

以下は、各SCSI機器使用時の［CONFIG.SYS］の設定例です。通常、「PCSC-Fシリーズサポートソフト」のインストーラ（INSTALL.EXE）にて設定されます。CONFIG.SYS等をエディタで編集する場合には、【・ PCSC-Fドライバの組み込み例】(P86)を参照してPCSC-F専用PCカードドライバの後に登録してしてください。

CD-ROM、CD-ROMチェンジャ、PDを使用する場合
以下のCONFIG.SYSでのドライバの設定以外に、AUTOEXEC.BATにCD-ROMエクステンション「MSCDEX.EXE」を組み込む必要があります。
（「MSCDEX.EXE」は「PCSC-Fｼﾘｰｽﾞ ｻﾎﾟｰﾄｿﾌﾄ」には付属しておりません）

<AUTOEXEC.BATの例>

¥DOS\MSCDEX.EXE /D:SCF001

■ハードディスク、リムーバブルハードディスク、3.5インチMOを使用する場合

DOS/Vマシンの場合

DEVICE=¥PCSCF¥ASPIDISK.SYS

但し、ASPIDISK.SYSは640MB以上のMOディスクを扱うことはできません。

PC-9800シリーズの場合

DEVICE=¥PCSCF¥SCF_BIOS.SYS

DEVICE=¥PCSCF¥BIOSDISK.SYS

弊社製MOFシリーズをお使いの場合

- ディスクドライバには「MODISK.SYS」に「/ASPI」オプションをつけて使用してください。
  PCカード添付のディスクドライバは使用しないでください。
- フォーマットを行う際は「MOUTL.EXE」に「/ASPI」オプションをつけて使用してください。
- 「MOF-1300サポートソフト」のインストール前後に、CONFIG.SYSの書き換えが必要な場合があります。MOFシリーズの取扱説明書を参照してください。

■CD-ROMを使用する場合

DEVICE=¥PCSCF¥SCSICD.SYS /D:SCF001

■CD-ROMチェンジャを使用する場合(弊社製CDC-TX86を除く)

DEVICE=¥PCSCF¥SCSICD.SYS /D:SCF001 /LUN

・弊社製CDC-TX86をお使いの場合は、CDC-TX86に付属のサポートソフトの SCCHANG.SYSドライバを組み込んでください。
(詳細については、CDC-TX86取扱説明書を参照してください。)

■SCSI-2未対応のCD-ROMドライブを使用する場合

各CD-ROMドライブ添付のCD-ROMドライバを使用してください。

■PDを使用する場合

DOS/Vマシンの場合

DEVICE=¥PCSCF¥ASPIDISK.SYS
DEVICE=¥PCSCF¥SCSICD.SYS /D:SCF001 /LUN

PC-9800シリーズの場合

DEVICE=¥PCSCF¥SCF_BIOS.SYS
DEVICE=¥PCSCF¥BIOSDISK.SYS
DEVICE=¥PCSCF¥SCSICD.SYS /D:SCF001 /LUN

■スキャナを使用する場合

Windows3.1上でスキャナを使用する場合、スキャナによっては、Windows3.1用ASPIマネージャ(WINASPI.DLL)が必要になります。
次ページの【・ Windows3.1用ASPIマネージャのインストール】を参照して、インストールしてください。

CONFIG.SYSには、PCSC-F専用のドライバ(SCF_ENBL.SYSとSCF_ASPI.SYS)が登録されていれば、CONFIG.SYSには他に必要ありません。

■Zipの場合

Zipドライブの取扱説明書を参照してください。

▪ Windows3.1用ASPIマネージャのインストール

「PCSC-Fシリーズサポートソフト」ディスクには、Windows3.1用のASPIマネージャ(WINASPI.DLL)が添付されています。
Windows3.1上で、スキャナやWindows3.1用SCSIユーティリティなどを使用する際にASPIマネージャが必要となる場合があります。必要な場合にインストールして使用してください。
DOS/Vマシン及びPC-9800シリーズで使用できます。

1)Windows3.1用ASPIモジュール(WINASPI.DLL等)を使用する場合には、MS-DOS版のAPSIマネージャ(SCF_ASPI.SYS)がCONFIG.SYSに組み込まれている必要があります。
2)WINASPI.DLLは、Windows3.1専用です。
Windows98/95に、このファイルを絶対に組み込まないでください。
Windows98/95では、ASPI機能が標準で提供されていますので、このファイルを組み込む必要はありません。
誤って本ディスクのWINASPI.DLLをWindows98/95の"SYSTEM"フォルダにコピーした場合、Windows98/95が正常に動作しなくなる可能性があります。誤ってコピーした場合は、必ず削除してください。

■インストール方法

インストールプログラムはありません。次の手順で組み込みを行ってください。

以下の手順はMS-DOS(PC DOS)上で行ってください。
Windows3.1のDOS窓では行わないでください。

「PCSC-Fシリーズサポートソフト」ディスクの¥WIN31ディレクトリのWINASPI.DLLをWindows3.1が組み込まれているディレクトリ内の"SYSTEM"ディレクトリにコピーします。

例）以下は、フロッピーディスクのドライブがAドライブで、Windows3.1が"C:¥WINDOWS"ディレクトリに組み込まれている場合です。

```
COPY A:¥WIN31¥WINASPI.DLL C:¥WINDOWS¥SYSTEM
```

・デバイスドライバについて

ここでは、サポートソフトに添付の各ドライバソフトについて、注意事項などを記載しています。

<SCF_ENBL詳細>

カードサービス用のイネーブラです。
このドライバで、I/Oアドレス／メモリアドレス(リソース)の設定を行います。

・オプション

/V	設定情報（I/Oアドレス、メモリウィンドウアドレス）表示
/PAUSE	エラー／警告メッセージ表示後、キー入力を待ちます
/IO=xxxx	ポートアドレス指定 xxx0 （次ページの[ポートアドレス指定値について]参照） ⇒初期設定は自動
/MEM=0 or 4	メモリマッピング長指定 ⇒初期設定は「4」 0を指定した場合、SMITモードは使用不可です。
/MODE=SMIT:L	SMIT(L)モード指定 特徴：従来SMIT方式と同様の転送方式により高速アクセス
PIO:H	PIO(H)モード指定 特徴：I/Oアクセスにより転送
PIO:L	PIO(L)モード指定 特徴：8ビット I/Oアクセスにより転送

SMIT(H)モード(初期設定)
オプション指定がない場合、このモードに設定されます。
特徴 ・Ultra SMITによる高速アクセス
・内蔵FIFOを利用した自己診断により、最適な転送モードを自動決定

初期設定で何らかの問題があった場合にモード変更をしてください。

[ポートアドレス指定値について]

ポートアドレスはデフォルトで自動決定されますが、使用環境によってはハードウェア的に競合する場合があります。
また他のPCカードを同時に使用する場合、他のPCカードが使用するポートアドレスを PCSC-Fが先に確保してしまう場合も考えられます。そのような場合の回避策としてオプションによるポートアドレスの手動選択を行ってください。
ポートアドレスの指定は 16進数 4桁で行います。

《DOS/Vマシンの場合》

0xx0と指定します。
（I/Oリソースの使用範囲は100hから3FFhの間が一般的ですが、使用するPCカードドライバによって若干異なります。）

SYSTEMSOFT製 CARDSOFTを採用している場合、
CSALLOC.INIファイルを参照します。
<CARDSOFT　CSALLOC.INI　IOリソース記述の例>
IO=108-1EF,1F8-377,380-3BF,3E8-3EF

Pheonix製 PCカードマネージャを採用している場合、
PCMCIAリソース管理ユーティリティPCMRMAN.EXEにてI/Oリソースの確認をする事ができます。

《PC-9800シリーズの場合》

xxD0またはxxE0と指定します。
（xxの範囲はCSALLOC.INIファイルを参照してください。）
<CSALLOC.INI　IOリソース記述の例>
IO=B0-BF,D0-EF,1D0-1EF,2D0-2EF,3D0-3DF,3E8-3EF,
4D0-4EF,5D0-5EF,6D0-6EF,7D0-7EF,888-88F,F40-F4F,
10D0-10EF,11D0-11EF,12D0-12EF,13D0-13EF,14D0-14EF,
15D0-15EF,16D0-16EF,17D0-17EF,2800-287F,2900-297F
<指定例>　/IO=10D0

《EPSON 98互換機の場合》

0xx0と指定します。
（xxの範囲はCSALLOC.INIファイルを参照してください。）
<CSALLOC.INI IOリソース記述の例>
IO=300-35F,368-36F,378-3DF,3E8-3EF,3F8-3FF
<指定例>　/IO=0300

●SCF_ASPI.SYS

ASPIマネージャです。

ここで設定できるオプションは、同期転送などのSCSI機器に依存するオプションの設定のみです。I/Oポートなどのカードに関するオプションの設定は、SCF_ENBL.SYSのオプションで設定します。

書式　DEVICE=[ドライブ]:[¥パス]¥SCF_ASPI.SYS　＜/L[+|-]＞ ＜/S[+|-]＞
＜/D[+|-]＞ ＜/[0-7]:オプション文字列＞

・オプション

/L[+|-]　ロジカルユニットの検索を許可(+)／禁止(-)します。
初期設定は、許可(+)。
組込み時のデバイススキャン時に、ロジカルユニットも検索するかどうかを設定します。

/S[+|-]　同期転送を許可(+)／禁止(-)します。
初期設定は、許可(+)。

/D[+|-]　ディスコネクトを許可(+)／禁止(-)します。
初期設定は、許可(+)。

『SCSI-ID指定オプション』

/[0-7]：オプション文字列
SCSI-ID 毎に上記のパラメータを設定します。

例1）SCSI-ID 0の同期転送を禁止する場合。
/0:S-

例2）SCSI-ID 0の同期転送を許可し、ディスコネクトを禁止する場合。
/0:S+D-

例3）SCSI-ID 0の同期転送を禁止し、SCSI-ID 1の同期転送を許可する場合。
/0:S- /1:S+

●SCF_BIOS.SYS

PC-9800シリーズ用98BIOS互換ドライバです。

ここで設定できるオプションは、BIOSとしての動作に関するオプションのみです。同期転送などのSCSI機器に依存するオプションの設定は、SCF_ASPI.SYSのオプションで設定します。また、I/Oポートなどのカードに関するオプションの設定は、SCF_ENBL.SYSのオプションで設定します。

書式　DEVICE=[ドライブ]:[¥パス]¥SCF_BIOS.SYS ＜/Q[+|-]＞ ＜/R[+|-]＞ ＜/B[+|-]＞ ＜/[0-7]:オプション文字列＞

・オプション

/Q[+|-]　クイックフォーマットを許可(+)／禁止(-)します。
初期設定は、許可(+)。
クイックフォーマットを指定した場合は、ベリファイコマンドとフォーマットコマンドが省略されます。

/R[+|-]　リムーバブルハードディスクのドライブ割り当てを許可(+)／禁止(-)します。
初期設定は、禁止(-)。

/B[+|-]　BIOSでのSCSI機器の認識を許可(+)／禁止(-)します。
初期設定は、許可(+)。

> 単純に「/B-」とした場合、すべてのIDが禁止されます。

『SCSI-ID指定オプション』

/[0-7]:オプション文字列
SCSI-IDごとに上記のパラメータを設定します。

例1）SCSI-ID 0のクイックフォーマットを禁止する場合
/0:Q-

例2）SCSI-ID 0のクイックフォーマットを許可し、SCSI-ID 1のBIOS認識を禁止する場合
/0:Q+ /1:B-

例3）SCSI-ID 1のみBIOSで認識させる場合
/B- /1:B+

●BIOSDISK.SYS

PC-9800シリーズ用のSCSI BIOS対応のディスクドライバです。

ハードディスク／MOドライブをMS-DOSのディスクとして認識させます。

Pオプションでディスク自動解析機能付きで起動することができます。

書式　DEVICE=[ドライブ]:[¥パス]¥BIOSDISK.SYS </P>

/P　ドライブをつなぎ変えた時に自動的に、ディスクパラメータの自動解析機能を起動します。

●ASPIDISK.SYS

DOS/Vマシン用のASPIマネージャ対応のディスクドライバです。

ハードディスク／MOドライブをDOSのディスクとして認識させます。

PC-9800シリーズでも使用可能ですが、SCF_BIOS.SYS,BIOSDISK.SYSと同時に組み込まないでください。

書式　DEVICE=[ドライブ]:[¥パス]¥ASPIDISK.SYS

オプション ： /ID=n,n,n....
nは,認識させるIDを列挙します。
例えば,SCSI-ID 0と2のみ認識させる場合には,
/ID=0,2と記述します。

ASPIDISK.SYSは640Mバイトのメディアを扱うことはできません。

●SCSICD.SYS

ASPIマネージャ及びSCSI BIOS対応のCD-ROMドライバです。
SCSI-1対応のCD-ROMには使用できません。
SCSI-2対応のCD-ROMにのみ対応しています。
PDやCD-ROMチェンジャ(弊社製CDC-TX86を除く)などを使用する場合には、LUNオプションを指定して、ロジカルユニットも検索するように設定してください。

書式　DEVICE=[ドライブ]:[¥パス]¥SCSICD.SYS /D:XXXXXXXX </LUN>

/D:XXXXXXXX　　デバイス名を最大８文字で指定します。

/LUN　　LUNも検索します。

1)弊社製CDC-TX86を使用する時は、CDC-TX86に付属のサポートソフトのSCCHANG.SYSドライバを組み込んでください。
（詳細はCDC-TX86取扱説明書参照）

2)CD-ROMドライブで次にあげる規格のCD-ROMは、正常に再生／読み出しができない場合があります。（弊社製CDG/CDVシリーズの場合は、下記の規格にも対応しています。）

マルチセッション CD-ROM
マルチセッション PhotoCD
Video CD
CD-I
CD-DA（オーディオCD）

その場合には、CD-ROMドライブに付属のサポートソフトでドライバを組み込んでください。
（詳細は各CD-ROMドライブに付属の取扱説明書参照）

用語解説

カードサービス

PCMCIAソフトウェアの中で、パソコンのハードウェアに依存しないドライバソフトです。PCカードの抜き挿しや、PCカードに割り当てるリソース（IRQ等）を管理します。

クライアントドライバ

PCMCIAカードを使用するために、カードサービスに対し各種設定を行うためのソフトをクライアントドライバと呼びます。カードの抜き差しを行った時等にカードサービスから呼ばれます。
PCSC-Fは、カードが入った時にリソースを確保して、抜かれた時には確保していたリソースを開放します。

ソケットサービス

PCMCIAソフトウェアの中で、ハードウェアに依存する部分をソケットサービスとして独立させることで、パソコン本体により異なるPCカードインターフェイスコントローラの違いを吸収します。

ターミネータ

SCSIインターフェイスに接続する最後のSCSI機器には、ターミネータを接続しなければなりません。
ターミネータを接続せずに使用すると、誤動作や故障の原因になります。

ASPI［アスピー］

SCSI機器を使用するためのソフトウェア規格です。
ホストボード側と周辺機器側の2種類あり、ハードディスクやCD-ROMを使用するためのドライバソフトは、ASPIドライバと呼ばれ、SCSIホストカード側はASPIマネージャと呼ばれています。

INT 1Bh

SCSIボードが搭載されたNEC PC-9800シリーズや、EPSON 98互換機でSCSI機器をアクセスする際に使用するソフトウェア割り込みです。通常NEC PC-9800シリーズ用のCD-ROMドライバやユーティリティはこのソフトウェア割り込みを使用して動作しています。

LUN［エルユーエヌ］

SCSIはIDとLUN(Logical Unit Number)を使用し、相手を選択します。通常のSCSI(ワイドや拡張LUNなし）ではID0～ID7、LUN0～LUN7で、1つのIDに対しLUNが8つあります。

PCMCIA［ピーシーエムシーアイエイ］

クレジットカードサイズに半導体を高度実装し、非常に高い機能を超小型で実現する「PCカード」のための規格です。ハードウェア、ソフトウェアの両方とも規定されています。

SCSI［スカジー］(Small Computer System Interface)

パソコンとハードディスク、CD-ROMドライブ等の周辺機器を接続するためのインターフェイス規格です。

困った時には

Windows98/95でのトラブル

Windows98/95で本製品を使用する際のトラブルについて説明します。(P104)

内容	ページ
PCSC-Fのドライバに！マークがついている	P104
Windows98上でPCSC-Fを使用した場合、Windows98の終了画面で止まってしまう	P106
PCカードのプロパティで「(空)-ソケット１（または２）」となる	P113
PCカードのプロパティで他のドライバが表示される（「?WBT NINJA SCSI-3」など）	P116
デバイスマネージャでPCSC-Fのドライバの下に、PCSC-Fに接続したSCSI機器が表示されていない	P116
マイコンピュータの中にPCSC-Fに接続したSCSI機器がない	P117
ASPIFORMを実行すると「ASPIマネージャが組み込まれていません」と表示される	P118
ASPIFORMを実行しても、PCSC-Fに接続したハードディスクがフォーマットの対象として表示されない	P118
SCSI機器の動作が不安定になる（ファイルコピーがとまる、など）	P119
スキャナ接続時に「不明なデバイス」と表示されたりドライバのインストール画面になる	P119
SCSI機器への書き込みが遅い（PC-9821シリーズの場合）	P119
以下のようになっている ・「デバイスマネージャ」の「種類別に表示」でPCMCIAソケットの中にコントローラがない ・PCMCIAソケットのコントローラに×マークがついている	P121
使用中にデータエラーが発生したり、パソコンが動かなくなる	P122

SCSI機器の正常認識確認

トラブルの原因が分からない場合は、ここ(P123)をご覧ください。

Windows3.1,MS-DOS でのトラブル

Windows3.1やMS-DOS(PC DOS)で本製品を使用する際のトラブルについて説明します。(P128)

Windows98/95でのトラブル

PCSC-Fのドライバに！マークがついている

原因１　SCSI機器との接続状態や電源の入れ方がおかしいです

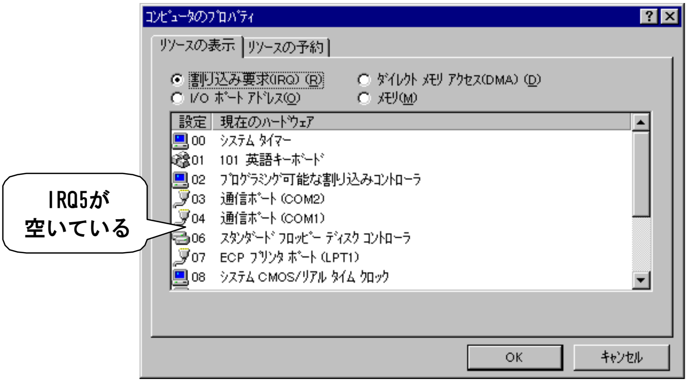
・本製品添付のケーブルを使用していますか？
・変換アダプタを使用していませんか？
　変換アダプタは使用できません。別売りのSCSIケーブルをご使用ください。
・SCSI機器の電源を入れてから、パソコンに挿入しましたか？
・うまく接触していない可能性があります。
　パソコンとすべてのSCSI機器の電源を切り、ケーブルの接続を確認してください。

原因２　割り込み（IRQ）のリソースに空きがありません

リソースに空きがあるか確認します。

●割り込み（IRQ）の確認

①［マイコンピュータ］を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。
②［デバイスマネージャ］タブをクリックします。
③［コンピュータ］が選択された状態で［プロパティ］ボタンをクリックします。
　飛んでいる数字が空いているリソースの場所です。



空きがない場合は、使用していない何らかの機能を無効にし、確実に割り込みの空きを用意した上で確認してください。
（無効にできる機能に関しては、パソコンの取扱説明書またはパソコン本体メーカーにご確認ください。）
なお、**割り込みの空きが1～2ヶ所存在する場合**でも、実際は内部で使用されている場合があります。他の割り込みを使用するPCカードをお使いの場合は、そのPCカードが使用可能か確認してみてください。

原因３ PCSC-Fが正しくインストールされていません

【インストールした情報を削除するには】(P44)を行います。
その後、【インストールしよう】(P18)を行ってください。

原因４ 接続したSCSI機器やパソコン環境に問題があります

他にSCSI機器やパソコン環境があるならば、そちらにPCSC-Fを接続してご確認ください。

Windows98上でPCSC-Fを使用した場合、Windows98の終了画面で止まってしまう

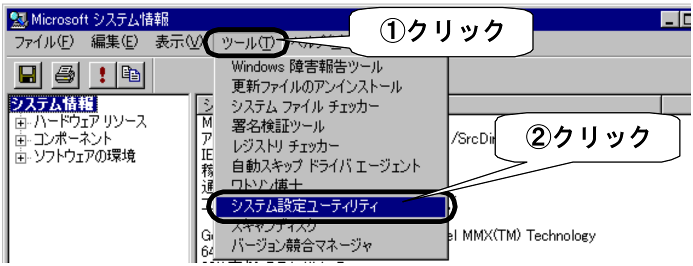
手順１ 高速シャットダウンを使用不可にしてください。

1 **PCSC-Fを外して、Windows98を起動します。**

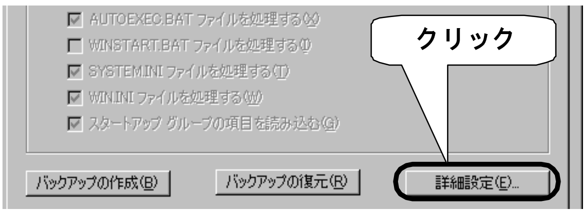
2 **［システム情報］を起動します。**

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［システム情報］の順にクリックします。

3 **［システム設定ユーティリティ］を起動します。**

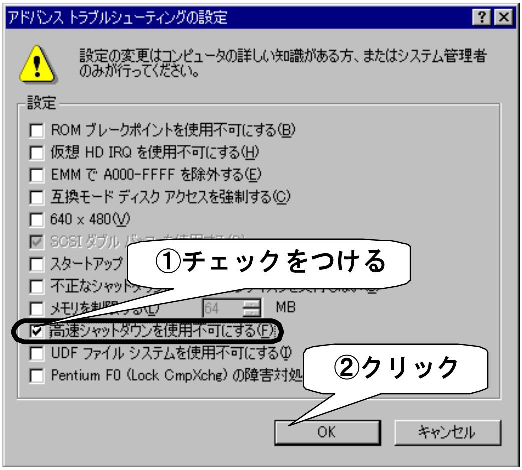


4 **［システム設定ユーティリティ］を起動します。**



5 高速シャットダウンを使用不可にします。

「高速シャットダウンを使用不可にする」にチェックを入れ、［OK］を押します。



以上の手順により、トラブルが直らなかった場合は、さらに手順を行います。

お使いのパソコンにUSBポートがありますか？

「ある」・・・・・・・・・・・・・・　「手順２」(次ページ)

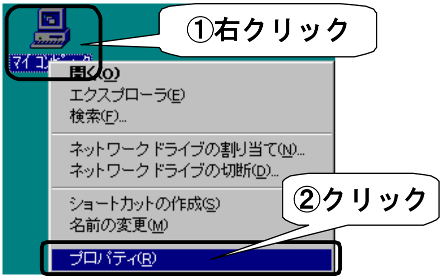
「ない」・・・・・・・・・・・・・・　「手順３」(P111)

手順2 USBのドライバのリソース（I/Oポートアドレス）を手動設定により、変更してください。

1 PCSC-Fを外して、Windows98を起動します。

2 ［システムのプロパティ］を開きます。

［マイコンピュータ］を右クリックし、表示された「プロパティ」をクリックします。



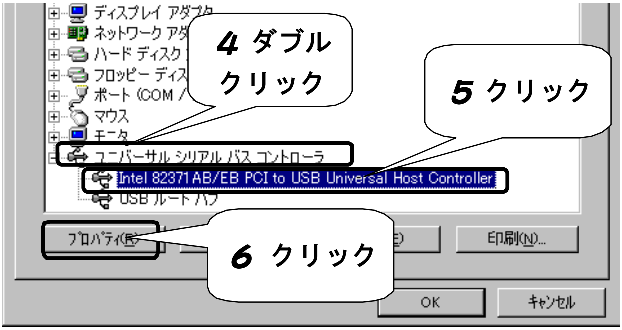
3 ［デバイスマネージャ］タブ、［種類別に表示］を順にクリックします。



4 [ユニバーサル シリアル バス コントローラ]をダブルクリックします。

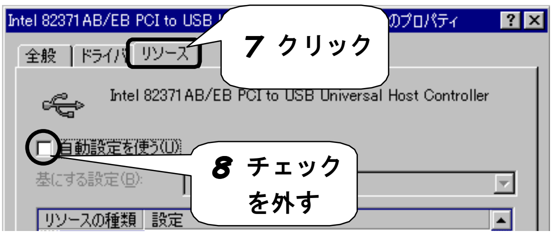
5 表示された「Intel…………」を選択します。

6 [プロパティ] ボタンをクリックします。



7 [リソース] タブをクリックします。

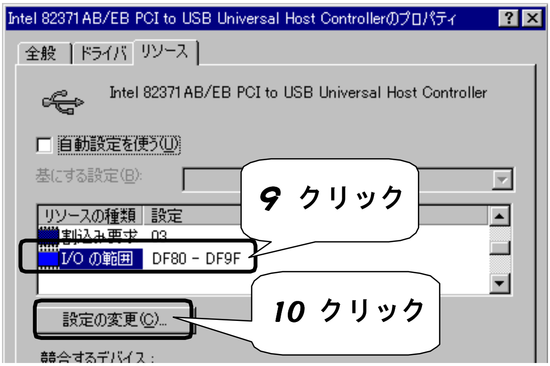
8 [自動設定を使う] のチェックを外します。



9 [I/Oの範囲] を選択します。

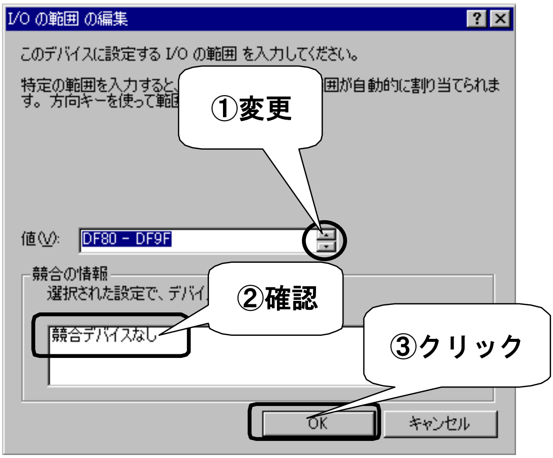
続く

10 ［設定の変更］ボタンをクリックします。



11 リソースの値を変更します。

［値］を変更します。
「競合の情報」の表示が「競合デバイスなし」であることを確認します。
［OK］ボタンをクリックします。

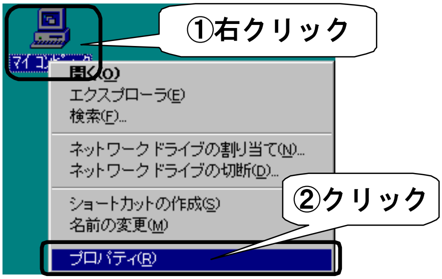


手順３ USBのドライバを使用不可にします。

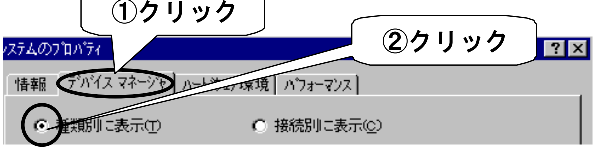
1 PCSC-Fを外して、Windows98を起動します。

2 ［システムのプロパティ］を開きます。

［マイコンピュータ］を右クリックし、表示された「プロパティ」をクリックします。



3 ［デバイスマネージャ］タブ、［種類別に表示］を順にクリックします。

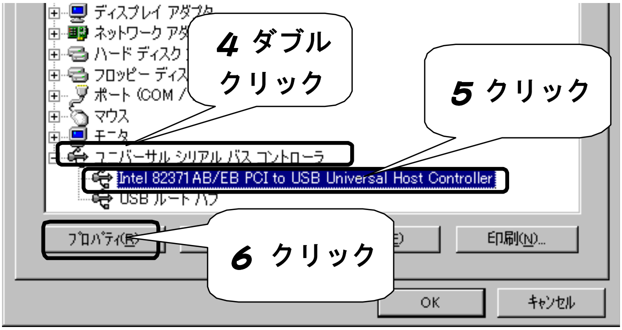


4 ［ユニバーサル シリアル バス コントローラ］をダブルクリックします。

5 表示された「Intel…………」を選択します。

続く

6 ［プロパティ］ボタンをクリックします。



7 ［全般］タブをクリックします。

8 ［このハードウェアプロファイルで使用不可にする］にチェックします。

9 ［OK］ボタンをクリックします。



PCカードのプロパティで「(空)-ソケット1（または2）」となる

原因1　カードが認識されていません

もう一度、抜き差ししてしっかりと挿入してください。
または、PCカードスロットを変えてお試しください。

原因2　IBM製 ThinkPadを使用している場合

手順1 以下の手順を行ってください。

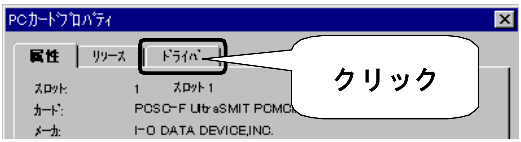
1 PCSC-Fを挿入します。

2 [CardWizard] を起動します。

デスクトップ上にある［CardWizard］アイコンをダブルクリックします。
アイコンがない場合、［スタート］→［プログラム］→［CardWorks］→［CardWizard］を順にクリックします。
両方ない場合は、［手順2］をお試しください。

3 [表示] → [プロパティ] を選択します。

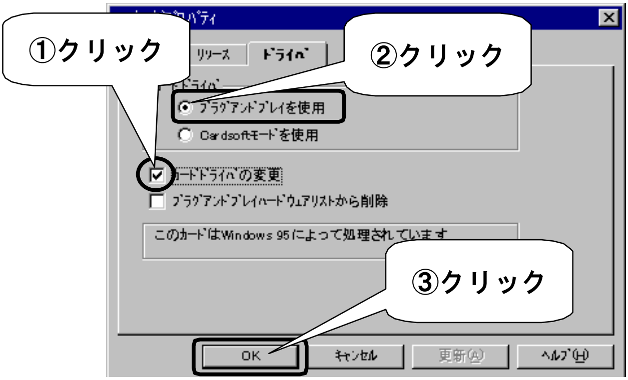
4 [ドライバ] タブをクリックします。



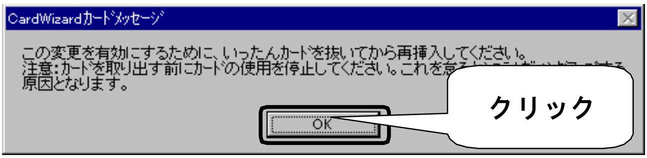
続く

5 「カードドライバ」を変更します。

［カードドライバ変更］にチェックを入れます。
［プラグアンドプレイを使用］を選択します。
終わりましたら、［OK］ボタンをクリックします。



6 ［OK］ボタンをクリックします。



7 PCSC-Fをパソコンから抜き挿しします。

手順２「CardWizard」がない場合は、以下の手順を行ってください。

1 SYSEDITを起動します。

［スタート］→［ファイル名を指定して実行］を順にクリックします。
「名前」に「SYSEDIT」と入力し、［OK］ボタンをクリックします。

2 「CONFIG.SYS」を編集します。

「CONFIG.SYS」ウィンドウをクリックし、すべての「¥CardWorks¥」の入った行の一番前に「REM 」を追加します。
終わりましたら、上書き保存を行い、ウィンドウを閉じます。

3 パソコンを再起動し、PCSC-Fを挿入します。

4 PCSC-Fの正常動作を確認します。

【確認しよう】(P24)参照。

5 確認後、SYSEDITを起動します。

1 を参照してSYSEDITを起動します。

6 2 で追加した「REM」をすべて削除します。

終わりましたら、上書き保存を行い、ウィンドウを閉じます。

PCカードのプロパティで他のドライバが表示される（「?WBT NINJA SCSI-3」など）

原因 PCSC-Fが正しくインストールされていません

【インストールした情報を削除するには】(P44)を行います。
その後、【インストールしよう】(P18)を行ってください。

デバイスマネージャでPCSC-Fのドライバの下に、PCSC-Fに接続したSCSI機器が表示されていない

原因１ SCSI機器との接続状態や電源の入れ方がおかしいです

・本製品添付のケーブルを使用していますか？
・変換アダプタを使用していませんか？
　変換アダプタは使用できません。別売りのSCSIケーブルをご使用ください。
・SCSI機器の電源を入れてから、パソコンに挿入しましたか？
・うまく接触していない可能性があります。
　パソコンとすべてのSCSI機器の電源を切り、ケーブルの接続を確認してください。

原因２ 割り込み(IRQ)のリソースに空きがありません

リソースに空きがあるか確認します。【PCSC-Fのドライバに！がついている】の【原因２】(P104)を参照してください。

原因３ カードのモードが速すぎます

転送速度を変更してください。
【カスタムユーティリティについて】(P78)を参照し、データ転送モード設定を「UltraSMIT(L) Mode」→「PIO(H)Mode」→「PIO(L)Mode」→「PollingMode」の順に変更してください。

原因4 SCSI機器が認識されているか確認します

【SCSI機器の正常認識確認】(P123)を参照してください。

[マイコンピュータ]の中にPCSC-Fに接続したSCSI機器がない

原因1 表示されてないだけです

[表示]→[最新の情報に更新]を実行してください。

原因2 《ハードディスクの場合》フォーマット形式が不正または未フォーマットです

【フォーマットしよう】(P29)を参照し、再フォーマット後、再起動してください。

原因3 《リムーバブルディスクの場合》ドライブ名が決定されていません

ドライブ名の予約を行ってください。
([コントロールパネル]→[システム]で[デバイスマネージャ]タブをクリックし、「ディスクドライブ」の項目からドライブの「プロパティ」を表示させ、「設定」によるドライブの予約を行うことができます。)

原因4 SCSI機器が認識されているか確認します

【SCSI機器の正常認識確認】(P123)を参照してください。

ASPIFORMを実行すると「ASPIマネージャが組み込まれていません」と表示される

原因 **MS-DOSモードで再起動して、実行したためです**

Windows98/95上から実行してください。
［マイコンピュータ］→［3.5インチ FD］→［ASPIFORM.EXE］の順にダブルクリックします。

ASPIFORMを実行しても、PCSC-Fに接続したハードディスクがフォーマットの対象として表示されない

原因1 **MS-DOSモードで再起動して、実行したためです**

Windows98/95上から実行してください。
［マイコンピュータ］→［3.5インチ FD］→［ASPIFORM.EXE］の順にダブルクリックします。

原因2 **接続しているハードディスクがハード的に認識されていません**

・本製品添付のケーブルを使用していますか？
・変換アダプタを使用していませんか？
　変換アダプタは使用できません。別売りのSCSIケーブルをご使用ください。
・SCSI機器の電源を入れてから、パソコンに挿入しましたか？
・うまく接触していない可能性があります。
　【SCSI機器の正常認識確認】(P123)を参照してください。

SCSI機器の動作が不安定になる（ファイルコピーがとまる、など）

原因　**カードのモードが速すぎます**

転送速度を変更してください。
【カスタムユーティリティについて】(P78)を参照し、データ転送モード設定を「UltraSMIT(L) Mode」→「PIO(H)Mode」→「PIO(L)Mode」→「PollingMode」の順に変更してください。

スキャナ接続時に「不明なデバイス」と表示されたりドライバのインストール画面になる

原因　**スキャナを正しくインストールしていない**

スキャナの取扱説明書に従い、ドライバをインストールしてください。

SCSI機器への書き込みが遅い（PC-9821シリーズの場合）

原因１　**『16Mバイトシステム空間』が「切り離す」になっている**

「98NOTEメニュー」で、『16Mバイトシステム空間』が「使用する」の設定になっていることを確認してください。
「切り離す」の場合は、正常に動作しませんので、変更してください。

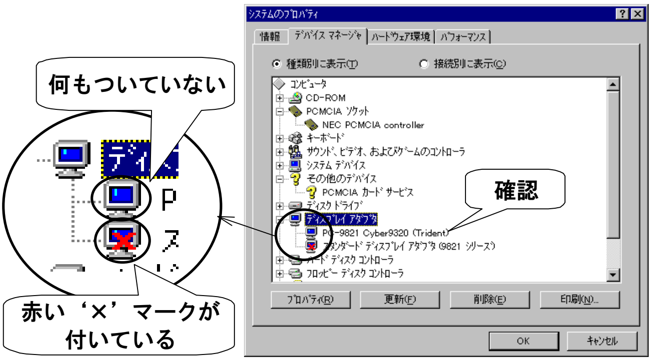
> 「98NOTEメニュー」は、[HELP]キーを押しながらパソコン本体の電源ONまたはリセットをすると起動します。
> 詳しくはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。

原因２　内蔵のウィンドウアクセラレータが正常に動作していない

以下の手順で、ウィンドウアクセラレータが正常に動作しているかを確認してください。

> 「スタンダードディスプレイアダプタ」が動作している場合は、PCSC-Fを使用することができません。

①［マイコンピュータ］を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。
②［デバイスマネージャ］タブをクリックします。
③［種類別に表示］を選択します。
④［ディスプレイアダプタ］アイコンをダブルクリックします。
⑤ウィンドウアクセラレータ（機種によって表示は異なります）に‘×’マークも‘！’マークも付いていないことを確認します。

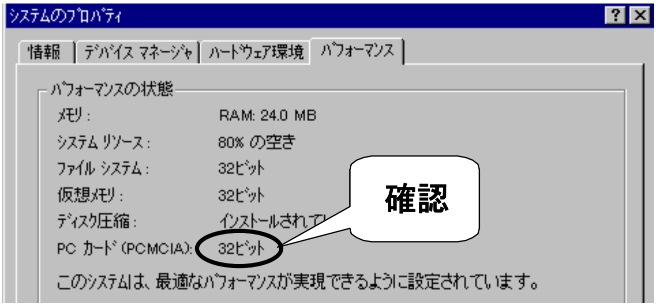


ウィンドウアクセラレータに‘×’マークまたは‘！’マークがついている（機種により表示は異なります）場合は、ディスプレイアダプタが正常に動作していません。
ウィンドウアクセラレータのドライバを正しくインストールしてください。
（インストール方法の詳細は、パソコン本体の取扱説明書を参照してください。）

以下のようになっている
- **「デバイスマネージャ」の「種類別に表示」でPCMCIAソケットの中にコントローラがない**
- **PCMCIAソケットのコントローラに×マークがついている**

原因 **PCカードドライバが32ビットではない**

［マイコンピュータ］を右クリックして、［プロパティ］をクリックします。
PCカードのドライバが32ビットであることを確認してください。



32ビットになっていない場合は、［コントロールパネル］の［PCカード］アイコンをダブルクリックしてください。
PCカードウィザードが起動されますので、画面の指示に従って実行していただくと32ビットに変わります。
（詳細は、パソコン本体メーカーにお問い合わせください。）

使用中にデータエラーが発生したり、パソコンが動かなくなる

原因１　ケーブル長が長い

【2台目以降に使用するSCSIケーブルは、長さ30cm以下のケーブル（弊社製別売オプションA50-A50-S,H50-H50-SまたはA50-H50-S等）を使用してください。

原因２　１台目にUltra SCSIハードディスクを接続している

Ultra SCSIハードディスクをご使用の場合は、2台目以降に接続してください。

SCSI機器の正常認識確認

ここでは、SCSI機器が正常に認識されているかを確認します。

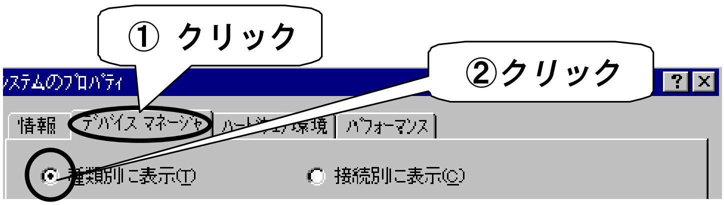
● **PC98-NXシリーズ(mobioNXシリーズを除く)、PC-9821Nr15,Nr150,Nr166,Nr233,Nr266,Nw133,Nw150、及びDOS/Vマシンの場合**

1 ［システムのプロパティ］を開きます。

［マイコンピュータ］を右クリックし、表示された「プロパティ」をクリックします。

2 ［種類別に表示］を選択します。

［デバイスマネージャ］タブをクリックします。
その後、［種類別に表示］をクリックしします。



PC98-NXシリーズをお使いで「デバイス　マネージャ」タブが表示されない場合 ⇒

1. ［スタート］→［プログラム］→［Cyber Trio-NX］（［NXユーティリティ］または［NXの設定］）→［Cyber Trio-NXｾｯﾄｱｯﾌﾟ］を選択します。
2. ［アドバンスモード］にチェックし、Windowsを再起動します。
3. 再度手順の *1* から行います。

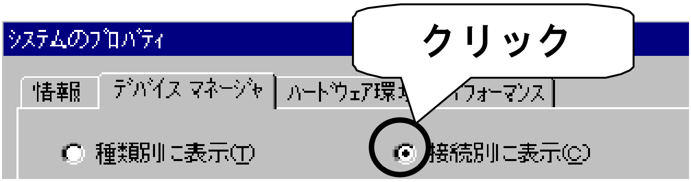
続く

3 ［PCMCIAソケット］をダブルクリックします。

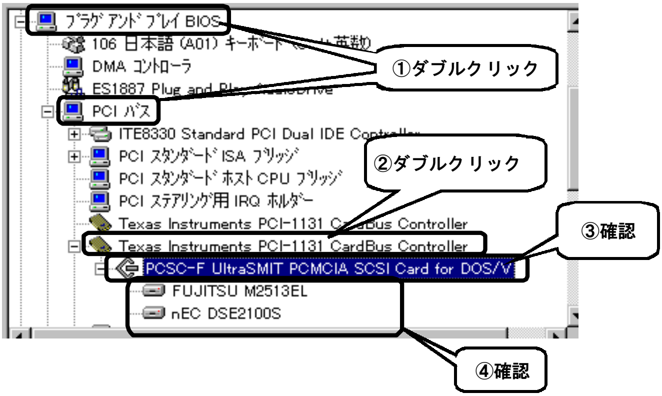
［PCMCIAソケット］の下にコントローラが表示されます。
「PCMCIAカードサービス」以外の表示されたコントローラ名をメモします。

「PCMCIAソケット」の下にコントローラが表示されなかったり、コントローラに“×”がついていた
→
【困った時には】内の「以下のようになっている」(P121)を参照してください。

4 ［接続別に表示］をクリックします。



5 PCSC-F及び接続されたSCSI機器を確認します。



① ［プラグアンドプレイBIOS］→［PCIバス］の順にダブルクリックします。

② ***3*** でメモしたコントローラ名をダブルクリックします。

③ **「PCSC-F UltraSMIT PCMCIA SCSI Card XXXX」**が正常に表示されるかを確認します。

'XXXX'の表示は、【インストールしよう】時の手順***4***（P19）で選択したドライバにより異なります。

“！”マークがついている	→	「PCSC-Fのドライバに“！”マークがついている」（P104）を参照してください。

④ 「PCSC-F UltraSMIT PCMCIA SCSI Card XXXX」をダブルクリックし、PCSC-Fに接続したSCSI機器の型名（製品名とは異なります）が、PCSC-Fの下に正常に表示されていることを確認します。（型名については、各メーカーにお問い合わせください。）

SCSI機器が表示されない	→	「デバイスマネージャでPCSC-Fのドライバの下に、PCSC-Fに接続したSCSI機器が表示されていない」（P116）を参照してください。
SCSI機器が表示された	→	SCSI機器は正常認識されています。SCSI機器の取扱説明書をご覧ください。

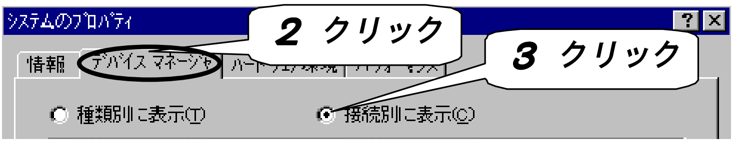
● **PC98-NX mobioNXシリーズ、及び
PC-9821Np, Ns, Nd, Nd2, Ne2, Ne3, Nm, Nf, Nx, Nb7, Nb10,
Na7, Na9, Na12, Na13, Na15, Nr12, Nr13, La7, La10, La13,
Ld, Lt, Lt2, Ls12, Ls13, Ls150の場合**

1 ［システムのプロパティ］を開きます

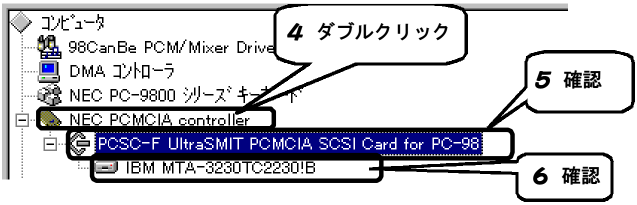
［マイコンピュータ］を右クリックし、表示された「プロパティ」をクリックします。

2 「接続別に表示」を選択します。

［デバイスマネージャ］タブをクリックします。
その後、［接続別に表示］をクリックしします。



4 PCSC-F及び接続されたSCSI機器を確認します。



① **[NEC PCMCIA Controller]** をダブルクリックします。

「NEC PCMCIA Controller」がない → 「プラグアンドプレイBIOS」をダブルクリックしてみてください。

「NEC PCMCIA Controller」がない / 「NEC PCMCIA Controller」に “×” がついている → 【困った時には】内の「以下のようになっている」(P121) を参照してください。

② **「PCSC-F UltraSMIT PCMCIA SCSI Card XXXX」** が正常に表示されるかを確認します。

“！” マークがついている → 「PCSC-Fのドライバに “！” マークがついている」(P104) を参照してください。

③ 「PCSC-F UltraSMIT PCMCIA SCSI Card XXXX」をダブルクリックし、PCSC-Fに接続したSCSI機器の型名（製品名とは異なります）が、PCSC-Fの下に正常に表示されていることを確認します。（型名については、各メーカーにお問い合わせください。）

SCSI機器が表示されない → 「デバイスマネージャでPCSC-Fのドライバの下に、PCSC-Fに接続したSCSI機器が表示されていない」(P116) を参照してください。

SCSI機器が表示された → SCSI機器は正常認識されています。SCSI機器の取扱説明書をご覧ください。

Windows3.1,MS-DOSでのトラブル

使用中にデータエラーが発生したり、パソコンが動かなくなる

原因１　ケーブル長が長い

【2台目以降に使用するSCSIケーブルは、長さ30cm以下のケーブル（弊社製別売オプションA50-A50-S,H50-H50-SまたはA50-H50-S等）を使用してください。

原因２　１台目にUltra SCSIハードディスクを接続している

Ultra SCSIハードディスクをご使用の場合は、2台目以降に接続してください。

ハードディスクが使用できない

原因１　フォーマット形式が不正または未フォーマットです

ASPIFORM.EXEでフォーマットを行ってください。
フォーマットを行った後には再起動が必要になります。
（フォーマット方法は、【フォーマットしよう】(P75)を参照してください。）

原因２　PC-9800シリーズで、ハードディスクを弊社製以外のインターフェイスボードで使用した

パソコン起動時にディスクパラメータの登録（ディスクパラメータの自動解析によるデータ設定）を行ってください。
（【・ SCSI HDパラメータ自動解析プログラム】(P83)参照）
何らかの理由で自動解析が失敗した場合には、HDDP.COMを使用してください。
（【・ ハードディスクパラメータの表示】(P81)参照）

IBM製 ThinkPadシリーズでPCSC-Fが認識されない

原因 **カード用ソフトウェアとして、「EZGOING」または「Easy Playing」を使用しており、PCSC-F用ドライバが正常に組み込まれない**

①CONFIG.SYSに組み込まれているAUTODRV.SYSが、どのディレクトリに存在しているのかを確認します。
② ①で確認したディレクトリ内のAUTODRV.INIファイルの[SCSI]セクションに、以下の記述を追加します。

```
[SCSI]
CardID=SCSI
Option=Ignore      ← この行を追加
```

③変更後のAUTODRV.INIを保存し、再起動します。

スキャナが使用できない

原因 **Windows3.1用ASPIマネージャが組み込まれていません**

【・ Windows3.1用ASPIドライバのインストール】(P93)を参照し、Windows3.1用ASPIマネージャを組み込んでください。

Windows3.1,MS-DOSでのトラブル

PCSC-Fのソフトウェアからエラーが出る

エラーメッセージ	対処
PCSCF ： カードサービスが常駐していません.	パソコン本体のマニュアルを参照してカードサービスをインストールしてください。
PCSCF ： PCSC-Fカードが見つかりません.	PCSC-Fカードが正しくPCカードスロットに挿入されていることとEMM386.EXE等のメモリマネージャの、使用禁止メモリ領域の設定が正しいか確認してください。
PCSCF ： RequestIOに失敗しました.	/IOオプションで指定した IOアドレスを変更する。もしくはCONFIG.SYSファイルのAUTODRV.SYS/PCMSCD.EXEの行をREMにしてください。
PCSCF ： オプションの記述が違います.	正しいオプションの指定を行ってください。
PCSCF ： 既にドライバが組み込まれています.	CONFIG.SYSに複数登録されているドライバを1つにしてください。
PCSCF ： FIFOテストが異常終了しました.	/IOオプションでI/Oアドレスを変更してください。
PCSCF ： SCSIバスにターミネーターパワーが供給されていません.	SCSI機器からターミネーターパワーを供給してください。 （ただし、Zip等の自分自身のターミネーターに自分でターミネーターパワーを出力するSCSI機器は例外です。ターミネーターパワーを供給する設定の必要はありません。） PCSC-F単体（PCSC-FにSCSI機器を接続していない場合）でPCカードスロットに挿入している場合にも上記エラーとなります。

エラーメッセージ	対処
PCSCF : ケーブルが不良です.	ケーブルを交換してください。
SCF_ASPI : SCF_ENBL.SYS が, 見つかりません. または SCF_ASPI : SCF_ENBL.SYS not found.	SCF_ENBL.SYSが組み込まれていません。 SCF_ENBL.SYSをCONFIG.SYSに記述してください。 SCF_ENBL.SYSをカードサービス以降に組み込んでください。 SCF_ENBL.SYSの組み込み時に発生したエラーを解消してください。
SCF_ASPI : カードが正常に動作しません. または SCF_ASPI : Adapter is not working correctly.	SCF_ENBL.SYSが、カードのエラーを検出しています。 SCF_ENBL.SYSのリソース設定を変更してください。 接続しているSCSIケーブルが正しいか確認してください。 カードが故障している可能性があるので、交換してください。
SCF_ASPI : パラメータ文字列が不正です. または SCF_ASPI : Invalid parameter strings.	指定されたパラメータ文字列の中に不適切な記述を検出しました。 パラメータ文字列の指定を正しく修正してください。
SCF_BIOS : NEC PC-9800 シリーズ以外では, 動作しません.	NEC PC-9800シリーズ以外の機種では、動作しません。 組み込まないでください。
SCF_BIOS : 既に, SCF_BIOS.SYS が組込まれています.	SCF_BIOS.SYSが、既に組み込まれています。 組み込まないでください。

続く

Windows3.1,MS-DOSでのトラブル

エラーメッセージ	対処
SCF_BIOS : 既に, SCSI BIOSが存在します.	SCSI BIOS が存在します。 NEC PC-9800シリーズでは、複数のSCSI BIOSを動作させることができません。NEC PC-9800シリーズ以外の機種では、動作しません。 組み込まないでください。
SCF_BIOS : SCF_ASPI.SYSが, 組込まれていません.	SCF_ASPI.SYSが、検出できませんでした。 SCF_ASPI.SYSを、SCF_BIOS.SYSの前に、組み込んでください。
SCF_BIOS : 直前に組込まれたASPIマネージャは、SCF_ASPI.SYSではありません.	ASPIマネージャは組み込まれていますが、 SCF_ASPI.SYSではありません。 SCF_ASPI.SYSを組み込んでください。 SCF_ASPI.SYSの直後に、SCF_BIOS.SYSを組み込んでください。
SCF_BIOS : 不正なパラメータが指定されました.	パラメータ文字列が不正です。 パラメータ文字列を修正してください。

WINASPI.DLLでエラーが出る

エラーメッセージ	対処
この WINASPI.DLL は MS-Windows3.x用ですのでこの Windows では動作しません.	Windows3.x以外のWindowsを使用しています。 Windows3.xをご使用ください。
DOS上にASPIマネージャが見つかりません.	"SCF_ASPI.SYS"が正しく組み込まれていません。 再度、PCSC-Fシリーズサポートソフトをインストールしてください。 PC-9800シリーズで使用する場合は、インストール時にASPIマネージャを組み込む設定を行ってください。
DOS上のASPIマネージャまたは WINASPI.DLL はこのモードをサポートしていません.	Windows3.1が 386拡張モード以外のモードで動作しています。 Windows3.1を 386拡張モードで起動してください。
DOS上のASPIマネージャは Windows をサポートしていません.	"SCF_ASPI.SYS"以外のASPIマネージャを使用しています。 再度、PCSC-Fシリーズサポートソフトをインストールしてください。 PC-9800シリーズで使用する場合は、インストール時にASPIマネージャを組み込む設定を行ってください。
コンベンショナルメモリ上にデータバッファを確保できませんでした.	コンベンショナルメモリの空き容量が不足しています。 不要なデバイスドライバ類を使用しない様に設定を変更してください。他のアプリケーションが動作している場合は、それを終了させてください。

MSCDEX.EXEでエラーが出る

エラーメッセージ	対処
Device Driver not found	CD-ROMドライバ(SCF_ASPI.SYS等)がインストールされていません。 CD-ROMドライバをインストールしてください。
	CD-ROMドライバとハンドルネームが一致していません。 使用しているCD-ROMドライバのハンドルネームと一致させてください。 例: 使用しているCD-ROMドライバがSCSICD.SYSの場合、MSCDEX.EXEに「/D:SCF001」オプションを付加します。
Not enough drive letters available	MSCDEX /L:で指定したドライブ名が既に他のデバイスに割り当てられています。 /L:で指定したドライブ名がネットワークドライブ等に割り当てられていないか確認してください。
	CONFIG.SYSでLASTDRIVEの設定が足りない、または行われていません。 充分なドライブを確保できるよう、LASTDRIVEの設定を行ってください。 **書式例:LASTDRIVE=Z**

ハードウェア仕様

● PCSC-Fカード仕様

型番	PCSC-F
インターフェイス	SCSI-2
SCSI ID	ID=7 固定
使用するI/O	16バイト 可変
使用するIRQ	Windows98/95上： 使用する （PnPにより割り当てられた任意のIRQを1個専有 ただし、ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞﾓｰﾄﾞ時は使用しない） DOS上： 使用しない
使用する メモリウィンドウ	4Kバイト可変 （PC-9800ｼﾘｰｽﾞのWindows98/95環境のみ128Kバイト可変）
入力電圧	5V ± 5%
消費電流(平均)	30mA （動作時）
動作環境(温度)	5℃ ～ 35℃
動作環境(湿度)	20% ～ 80%（結露なきこと）
外形寸法	85.6(D) x 54.0(W) x 5.00(H)(mm)

●PCSC-FP用SCSIケーブル

◇専用25ピン⇔D-subハーフピッチ50ピン SCSIケーブル

カード側コネクタ：専用25ピンコネクタ(ロック機構付き)

SCSI機器側コネクタ：D-subハーフピッチ50ピンコネクタ(ロック機構付き)

●PCSC-F用SCSIケーブル

◇専用25ピン⇔アンフェノールハーフピッチ50ピン SCSIケーブル

カード側コネクタ：専用25ピンコネクタ(ロック機構付き)

SCSI機器側コネクタ：アンフェノールハーフピッチ50ピンコネクタ(ロック機構付き)

●PCSC-FF用SCSIケーブル

◇専用25ピン⇔アンフェノールフルピッチ50ピン SCSIケーブル

カード側コネクタ：専用25ピンコネクタ(ロック機構付き)

SCSI機器側コネクタ：アンフェノールフルピッチ50ピンコネクタ（ロック機構付き）

●PCSC-FA用SCSIケーブル

◇専用25ピン⇔D-sub**25ピン SCSIケーブル**

カード側コネクタ：専用25ピンコネクタ(ロック機構付き)

SCSI機器側コネクタ：D-sub25ピンコネクタ(ロック機構付き)

●カード側コネクタ ピンアサイン表

1	TERMPWR	6	-I/O	11	-BSY	16	-DB6	21	GND
2	-ACK	7	-C/D	12	-ATN	17	GND	22	-DB2
3	-GND	8	-SEL	13	GND	18	-DB5	23	-DB1
4	-REQ	9	-MSG	14	-DBP	19	-DB4	24	-DB0
5	GND	10	-RST	15	-DB7	20	-DB3	25	GND

サポートセンターへのお問い合わせ

弊社サポートセンターへのお問い合わせはユーザー登録された方に限ります。
以下に記入して、お問い合わせのときにお知らせください。
連絡方法については次ページをご覧ください。

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアルNo.
   (フロッピーディスクに貼ったVerシールに印刷されています。)
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

《連絡方法》

■オンライン

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	**http://www.iodata.co.jp/support** 「サポートセンターお問い合わせ」内のフォームを使用してE-mailをお送りください。
NIFTY SERVE	ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(SIODATA)サポート会議室

■郵便

住所	〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1 株式会社アイ・オー・データ機器 サポートセンター「PCSC-F」係　宛

■電話

電話番号	本社	**076-260-3366**
	東京	**03-3254-0301**
受付時間	9:30～12:00　13:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）	

■FAX

FAX番号	本社	**076-260-3360**
	東京	**03-3254-9055**
宛先	株式会社アイ・オー・データ機器 サポートセンター「PCSC-F」係　宛	

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。

■オンライン

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	http://www.iodata.co.jp/ →「ｻﾎﾟｰﾄ･ﾗｲﾌﾞﾗﾘ」
NIFTY SERVE	ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ（SIODATA）のﾗｲﾌﾞﾗﾘ7（LIB 7）

■バージョンアップ窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

住所　〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1
株式会社アイ・オー・データ機器
「PCSC-F」 バージョンアップ係　宛
電話番号　076-263-7070
受付時間　9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

ご注意

●オンラインによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
●添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。
●このサービスへのご質問は、弊社サポートセンターやバージョンアップ窓口ではお受けできません。

修理について

　弊社製品の修理については、以下の事項をご確認のうえ、販売店もしくは弊社サポートセンターへご依頼ください。

● 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。また、修理品のデータに関しましては保証いたしかねます。

● 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『サポートセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。

● 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
◇保証書がない場合
◇保証書の所定事項が未記入の場合
◇電源ONで挿入、抜去、逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
◇落雷などの事故による破損の場合
◇本製品を改造した場合

● 保証期間後は有償で修理いたします。
製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

● 修理品送付先

住所　**〒920-8513 石川県金沢市桜田町15街区7　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル**
株式会社アイ・オー・データ機器
「PCSC-F」　修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱･梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、**宅配便**または**書留郵便小包**でのご送付をお願いいたします。

● 修理品納期問い合わせ窓口

電話番号　**金沢**　**076-260-3663**
受付時間　**9:30～12:00　13:00～17:00**
月～金曜日（祝祭日を除く）

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、こちらまでお問い合わせください。

PCSC-F 取扱説明書
1999.Jun.30　5378-05
発　行　株式会社アイ･オー･データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1

ここにＶｅｒシールをお貼りください。

Ｖｅｒシール